



令和6年度食産業の戦略的海外展開支援委託事業

(中東主要国の農林水産業・食品分野における日系企業の投資促進)

報告書

2025年03月14日



本事業では、日本企業によるUAE及びサウジアラビアに対する協力案件や投資案件の増加や輸出商流構築に資するための情報整理及びセミナーによる情報提供と、現地事業者及び政府機関との対話を通じたマッチング支援を行った

背景

- 昨年7月、我が国は岸田総理によるアラブ首長国連邦（以下「UAE」）、サウジアラビア歴訪において、様々な分野での協力の強化について確認した。日・UAE間において、包括的・戦略的パートナーシップ・イニシアティブ（CSPI）の下「農業及び水産分野における協力覚書」を締結し、日・サウジアラビア間において、二国間の協力枠組みである「日・サウジ・ビジョン2030」に基づき、協力を行っているところである。
- また、両国から野菜などの生産性向上や節水農業など日本の技術に高い関心を示されるほか、サウジアラビアからは牛肉の輸入拡大に関心が示されているが、それらに関連する協力案件や日系企業による投資案件の数は多くない。

目的

- このような背景から、本事業においては中東主要国（UAE、サウジアラビア）について、農業・水産分野における日系企業の投資促進及び日本産農林水産物・食品の輸出拡大のため、以下の3点を実施した。
 1. 現地進出やビジネス展開に必要な政策や制度、規制情報などのビジネス環境の調査・情報整理
（一部の調査内容については、対象国にカタール、バーレーン、クウェート、オマーンの4か国を加え、湾岸協力会議への加盟国6か国（以下GCC6か国）とする）
 2. 現地進出に関心のある日系企業に対し調査の情報提供する場としてのセミナー開催
 3. パートナーとなりうる現地企業とのマッチング支援を目的とした官民ミッション派遣

1. 投資環境調査



植物工場編

1. GCC基本データ (P.8)
2. UAE及びサウジアラビア政府が自国の農林水産分野において抱える課題 (P.9)
UAEとサウジアラビアの過酷な気候と農業環境 (P.9)
3. UAE及びサウジアラビア政府が自国の農林水産分野において抱える課題に対する解決方針 (P.10-12)
 - A. UAEの農業水産分野の課題に対する政策 (P.13-20)
 - i. UAEの食料自給率向上に向けたアプローチ (P.13-15)
 - ii. ドバイの食料自給率向上に向けた政策 (外資参入と公的資金による支援) (P.16-18)
 - iii. アブダビの食料自給率向上に向けた政策 (外資参入と公的資金による支援) (P.19、20)
 - B. サウジアラビアの農業水産分野の課題に対する政策 (P.21-26)
 - i. サウジアラビアの食料自給率向上に向けたアプローチ (P.21)
 - ii. サウジ農業・家畜投資会社 (SALIC) による国内外の生産者や農地への投資・買収 (P.22)
 - iii. サウジアラビアの食料自給率向上に向けた政策 (外資参入と公的資金による支援) (P.23-26)
4. 他国政府が支援・協力を行っている政策 (P.27)
 - A. 他国の研究機関・教育機関・財団による支援事例 (P.27)
5. 植物工場に関する農業生産資材や工場運営等日系企業が進出する上で必要かつ有益な情報 (P.28)
 - A. UAE、サウジアラビアで農業生産資材や工場運営等の技術提供を行っている企業 (P.28)
6. UAE・サウジアラビアにおける日本企業の投資機会 (P.29)
7. ANNEX (P.30)
 - A. 平成30年度 (2018年度) 時点で確認されていた植物工場及びに研究施設の消息 (P.30)



外食産業編

1. **GCC市場データ（進出日系企業が事業活動および販売戦略を行う上で有益な情報）（P.32-38）**
 - A. GCC各国の日本企業拠点数（P.32）
 - B. UAEにおける日本からの食品輸出状況（P.33、34）
 - C. GCC各国の牛肉輸入金額推移（2013～2022）（P.35）
 - D. GCC各国の牛肉輸入量推移（2013～2022）（P.36）
 - E. GCC各国の日本からの食品・飲料の輸入額推移（P.37）
 - F. GCC各国の日本からの牛肉輸入金額・量推移（P.38）
2. **GCC飲食店・小売店データ（進出日系企業が事業活動および販売戦略を行う上で有益な情報）（P.39-52）**
 - A. GCC各国の日本食を提供する飲食店 店舗数（P.39）
 - B. 中東における日本食レストランの普及ステージと各国の状況（P.40）
 - C. サウジアラビアの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例（P.41）
 - D. UAEの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例（P.42）
 - E. カタールの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例（P.43）
 - F. バーレーンの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例（P.44）
 - G. オマーン・クウェートの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例（P.45）
 - H. サウジアラビアの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格（P.46）
 - I. UAEの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格（P.47、48）
 - J. カタールの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格（P.49）
 - K. バーレーンの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格（P.50）
 - L. オマーンの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格（P.51）
 - M. クウェートの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格（P.52）
3. **日本企業との提携に関心がありパートナーとなり得る現地企業の情報（P.53）**
4. **牛肉に関する輸出関係書類（P.54）**
5. **牛肉に関する輸入関税（P.55）**
6. **牛肉に関するハラル認証取得手続きと規制（P.56、57）**
 - A. ハラル認証取得が可能な日本の機関（P.56）
 - B. 牛肉に関するハラル認証取得手続き（P.57）
7. **ハラル認証に関して（P.58）**
8. **GCC各国の認定屠畜場・加工場のリスト（P.59）**



略語

UAE：アラブ首長国連邦

KSA：サウジアラビア王国

CSPI：包括的・戦略的パートナーシップ・イニシアティブ

CIA：（米国）中央情報局

IOM：国際移住機関

GDP：国内総生産

AED：アラブ首長国連邦ディルハム

ADFCA：アブダビ食料管理庁

ADFCS：アブダビファーマーズサービスセンター

ADIA：アブダビ投資庁

ADFD：アブダビ開発基金

ADIO：アブダビ投資局

DAFSA：ドバイ市政庁食品安全局







Dubai FDI：ドバイ外国直接投資庁



植物工場編に関する調査



GCC 6 か国 基本データ

	 アラブ首長国連邦	 サウジアラビア	 カタール	 バーレーン	 クウェート	 オマーン
首都	アブダビ	リヤド	ドーハ	マナーマ	クウェート	マスカット
国家元首	大統領ムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン	大統領 サルマーン・ビン・アブドゥルアズィーズ	首長 タミム・ビン・ハマド・アール＝サーニー	国王 ハマド・ビン・イーサ・アール・ハリーフア	首長 ミシュアル・アル＝アフマド・アル＝ジャービル・アッ＝サバーハ	国王 ハイサム・ビン・タリク・アール＝サイード
面積	8万km ²	215万km ²	1.1万km ²	760 km ²	1.7万km ²	31万km ²
人口	1,003万人	3,654万人	255万人	156万人	313万人	390万人
移民割合	88%	42%	77%	63%	70%	44%
人種	Emirati 12%、他移民	アラブ系90%	Qatari 88%、他移民	Bahraini 47%、他移民	Kuwaiti 30%、他移民	Omani 50%、他移民
宗教	イスラム教 74% キリスト教 13% その他	イスラム教 95% その他	イスラム教 65% キリスト教 13.7% その他	イスラム教 74% その他	イスラム教 74% キリスト教 18% その他	イスラム教 86% キリスト教 6% その他
日本企業拠点数	358	114	30	17	19	23
在留邦人数	4,358名	628名	555名	168名	154名	121名

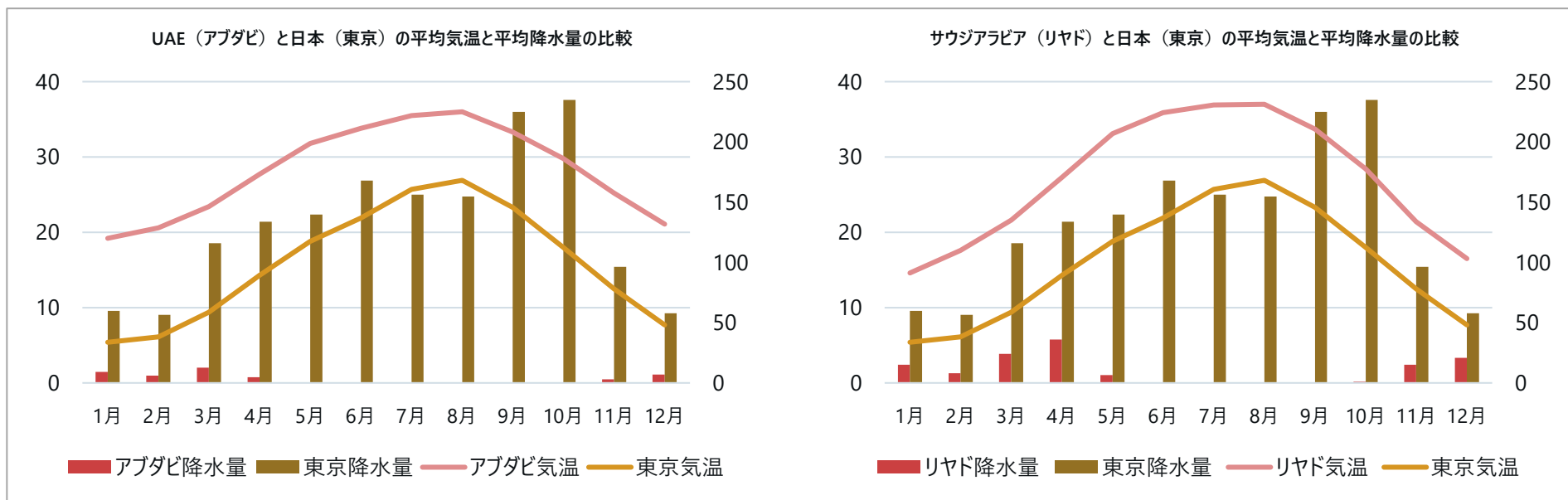


UAEとサウジアラビアの過酷な気候と農業環境

UAEとサウジアラビア、両国ともに砂漠気候に属し、それぞれの首都（アブダビ、リヤド）の年間降水量は42mm・66mmと極端に少なく、年間を通じて高温なため農業を営むには課題の多い国土が広がる。

河川などの表流水は非常に限られた供給しかなく、現地の農業は地下水（非持続性水源）などの化石水がその供給のほとんどを担っているが、近年では1950年代から徐々に導入されたセンターピボット式農業による大規模灌漑農業の影響もあり、水位の低下や塩分濃度の上昇から農業から撤退する事業者も増えている。現在のペースで地下水を使い続けると2035年には地下水が枯渇する地域もあるとみている専門家もいる。

両国ともに近年移民の増加による人口増で年々食料需要は右肩上がりであるが、農業に適さない国土が広がっており、食料安全保障の観点から食料自給率（現在は約20%）の向上は喫緊の課題である。



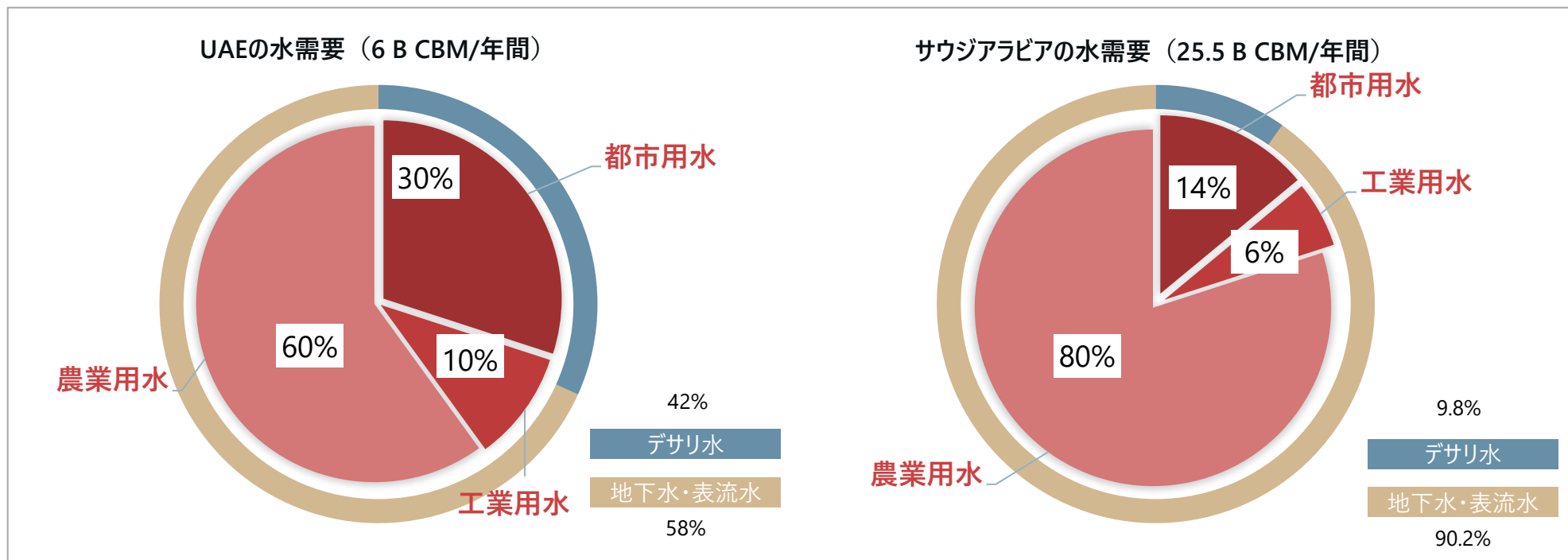


UAEとサウジアラビアの過酷な気候と農業環境

UAE、サウジアラビア共に厳しい国土のほとんどが厳しい砂漠気候であり、水資源は極めて僅かな表流水、または近年塩分濃度の上昇や枯渇が危惧されている地下水しかないというのは、両国が何年も頭を抱えてきた問題であった。

UAE、サウジアラビア共に都市用水よりも農業用水の方がその絶対的な需要量は大きく、国の水需要全体に農業用水が占める割合はUAEが60%、サウジアラビアが80%となっており、中東の食料安全保障と水問題は切っても切れない関係にある。

近年は両国の海水淡水化事業が軌道に乗り、UAEの場合は都市用水の100%、KSAの場合は70%が淡水化事業によって賄われていると試算しているが、水需要の大半を占める農業用水は未だに化石水で賄われている。

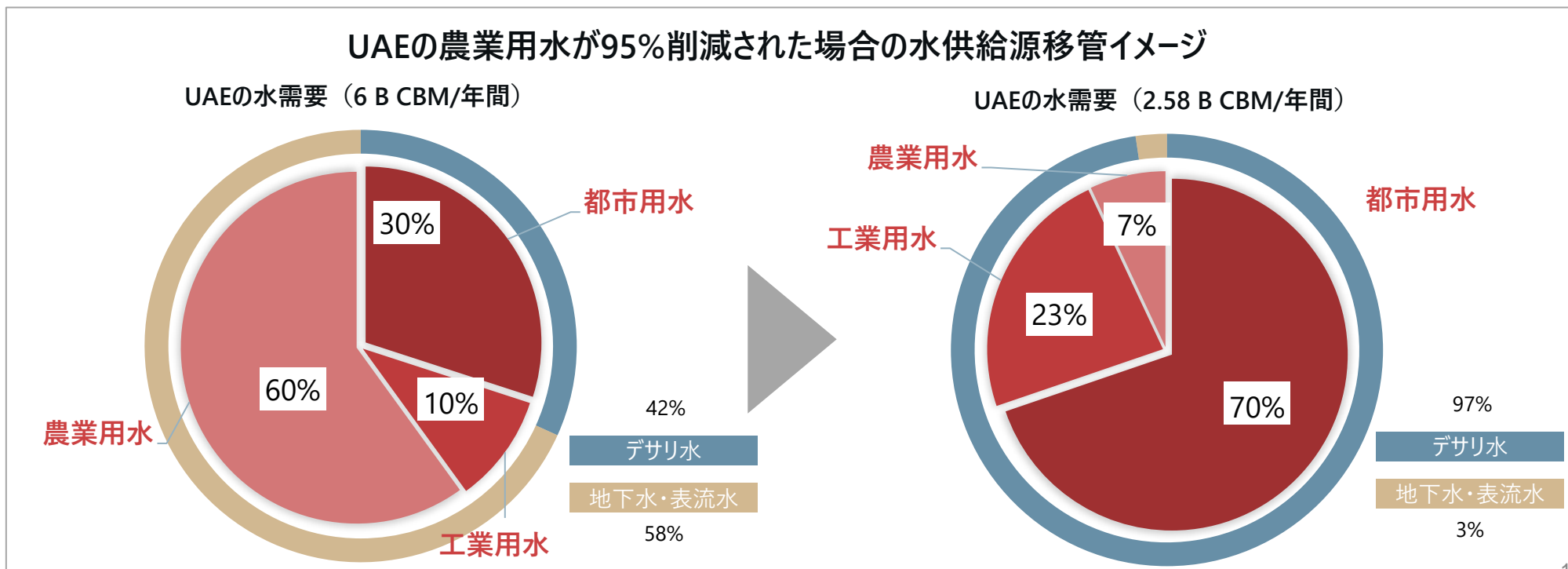




UAEとサウジアラビアの過酷な気候と農業環境

淡水化事業は新プラントの建造や技術革新によって精製可能な水の量を増やしている一方で、都市部の移民による急激な人口増加により、水の供給は常に圧迫されており、農業用水に莫大なコストで淡水化された水が安定的に供給されるのは今後数年以内の話ではない。

近年、従来の農業と比較して水使用量が90～95%削減できるとされる垂直栽培の工場が両国で稼働し始めている。小麦などの穀物の生産は難しいがそれ以外のカテゴリーの農産物では食料自給率が100%を超えたものも出現しており、化石水に依存しない持続可能な農業の発展が進んでいる。





UAEとサウジアラビアで共通して見られる食料自給率の向上へのアプローチ

両国共に現地生産を伸ばすもの、輸入と現地生産でバランスよく供給を確保するもの、海外の農地や生産者に投資し大部分を輸入で賄うものと3つのアプローチに分類される。

食料は主に、農産品（果実・野菜・穀物）畜産品（乳製品・畜産品）水産品に分類されるが、水の使用量が比較的に少ない果実と野菜はハウス栽培及びに垂直栽培による現地生産、エビやハタ、プラティアのように水産養殖が確立されており現地でも需要がある水産物は現地生産、ハウス栽培による大規模生産が確立されていない青果や養殖が難しい水産物は輸入または海外生産者への投資による供給確保、穀物のようにハウス栽培や垂直栽培が難しいとされるものは海外農地への投資・買収などで供給を確保している。

UAEは畜産品の国内需要の90%以上を輸入に頼っているが、サウジアラビアでは鶏肉の自給率が70%目前、鶏卵に関しては117%と輸出する余力があるまでに成長した産業もある。

酪農	畜産	農産	水産	穀物
<p>両国共に力を入れている分野であり、卵や牛乳の自給率は年々向上している。特にサウジアラビアの卵の自給率は100%を超えている。</p>	<p>UAEは全体需要の90%以上を輸入に頼っているが、サウジアラビアは鶏肉に関しては自給率が80%まで到達している。</p>	<p>ハウス栽培・水耕栽培・垂直栽培をうまく組み合わせ両国共に高気温に強く、水の使用量が少ない作物から自給率を向上させている。100%を超えるものも出てきている</p>	<p>UAE・サウジアラビア両国共に自国内での需要が高い品種から水産養殖を始め、現在では自給率が50%を突破している。海上・陸上養殖どちらも盛んである。</p>	<p>UAEはアフリカ、サウジアラビアは欧州や北米オセアニアなど、様々な地域の生産者に投資を行い、安定供給を確保している。</p>



UAEの食料自給率向上に向けたアプローチ

UAEは全体としては、GDPへの食料関連の寄与が0.1%と極めて低い数値であるため、これを改善したいという政府の意向がある。7つの首長国からなる連邦国家であるUAEは、外交や軍事は連邦政府に権限があるものの、資源開発や経済政策の各首長国に権限がある。連邦予算の8割がアブダビ、1割がドバイの税収から拠出されているように実質この2か国が連邦の方向性に強い発言力を有する。

UAEは自国民が人口（約1,000万人）に対して11%ほどしかいない移民国家であるがために、比較対象として見られやすいKSAと比べるとUAE産のものに対する国民の需要は小さい。自国産であるよりも価格や鮮度を優先した消費者の購買意識があるために、自国生産による食料自給率の向上よりも、葉物野菜のように鮮度が優先されるものは自国生産、穀物や冷凍鶏肉のように鮮度の優先度が低いものは貿易促進もしくは海外農地・生産者投資によって食糧安全保障が図られている。

UAEの連邦政府と各首長国の食糧安全保障担当機関





UAEの食料自給率向上に向けたアプローチ

UAE 食糧安全保障戦略

2051 ヴィジョン

世界をリードするイノベーションドリブンな食糧安全保障ハブ

主要食糧

効率的消費

生産能力向上

栄養摂取向上

主要18品目

果実



野菜



穀物と豆



その他



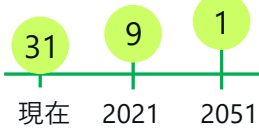
畜産・酪農



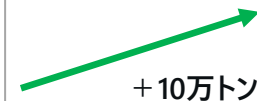
水産物



食糧安全保障目標



国内生産目標



水資源戦略2036



経済効果

- ①雇用創出
16,000の新規雇用
- ②金融インパクト
220億AED

目標達成に向けて

- 効果的な食糧安全保障ガバナンスモデルの構築
- 食糧安全保障のR&D目標の設定と運用
- 食糧安全保障データベースの立ち上げ
- 食糧安全保障政策に貢献できる人材育成
- 国民の食糧安全保障に対する意識・行動の向上

1

国を超えたアグリビジネスの交流の活発化と食物の輸入元の多様化
↑24% 輸入の戦略的投資の貢献 ↑67% 代替国際供給源の確保

2

持続可能な技術を活用した国内の食品供給をバリューチェーン全体で強化
↑30% 新しい技術を活用した生産の収量向上 ↑15% 戦略的食糧項目の生産増加

3

食品ロスと廃棄の削減
↓15% 食品ロスと廃棄の削減

4

食品安全を維持し、栄養摂取を改善
↓35% 食品安全インシデントの減少 ↓15% 不健康な食品要素の消費削減

5

食料安全保障のリスクと危機への対応能力を強化
↑100% 緊急事態演習の成功率 ↑100% 優先食糧項目に対する備蓄目標の達成



UAEの食料自給率向上に向けたアプローチ

食糧安全保障の戦略は連邦政府が打ち出し、それに呼応するように食糧自給率向上の方針を各首長国がリードする。投資検討や実行、行政による支援は首長国単位で行われる。

アブダビであれば、アブダビ食料管理庁（ADFCA）が監督省庁となり、アブダビファーマーズサービスセンター（ADFCS）が農業従事者の支援や農業技術開発を担当している。

技術支援の他に、資金援助も活発に行われており、アブダビ国内で農業に従事するもの、アブダビで革新的な農業技術の開発や普及を目的とする事業を営む者に対しては、アブダビ投資庁（ADIA）傘下のファンドやアブダビ開発基金（ADFD）主に行う。アブダビ投資庁局（ADIO）は投資の呼び込みやアレンジ支援を担当する。

ドバイであれば、ドバイ市政庁食品安全局（DAFSA）もしくはドバイ市政庁農業部門が農業従事者への支援や農業技術開発を担当する。他方でDubai FDI（ドバイ投資受入庁）は国内の農業従事者への投資の呼び込みや、アレンジ支援を担当し、ドバイ投資公社（ICD）やその他政府系ファンドが民間の事業者に投資をする。

UAEの連邦政府と各首長国の食糧安全保障担当機関		
	 アブダビ	 ドバイ
投資呼び込み	Abu Dhabi Investment Office (ADIO) アブダビ投資局	Dubai Foreign Direct Investment (Dubai FDI) ドバイ投資庁
投資実行	Abu Dhabi Investment Authority (ADIA) アブダビ投資庁 他	Investment Corporation of Dubai (ICD) ドバイ投資公社 他



ドバイの食料自給率向上に向けた政策（外資参入と公的資金による支援）

ドバイは石油の埋蔵量がアブダビと比較して少ないことから、1980年代から脱石油、経済多角化を図ってきた。結果中東では金融や貿易、観光面で随一の国家として成長、現在はハイテク産業・人材の誘致に力を入れており、投資も積極的に行っている。

ドバイ政府は2023年11月に10年後の2033年までにドバイのGDPに占める農業セクターの割合を倍増させる計画を打ち出した。国内外の両方の企業を対象にし、規制の緩和や、融資紹介、諸手数料の免除と多面的な支援をする。これに先行して、ドバイでは、食品セクターの集積地を目指す経済特区のフード・テック・バレー（Food Tech Valley）が内陸部で建設を開始している。（JETROより引用）

フード・テック・バレーには、Badia Farmsがドバイ政府の援助のもと進出は発表しており、23万6千平方フィートの植物工場の建設が進行中である。Badia Farmsには、政府の援助のみならず、Gulf Islamic Investments（GII）も投資している。



ドバイの食料自給率向上に向けた政策（外資参入と公的資金による支援）

Emirates Flight Catering (Emirates Bustanica)

- Bustanicaは、アラブ首長国連邦（UAE）のドバイに位置する、世界最大級の屋内垂直農場である。総面積は約330,000平方フィート（約30,658平方メートル）で、3フロアにわたり構成されている。年間生産量は1,000トン以上に達し、伝統的農法と比較して95%少ない水で栽培を行い、土壌は一切使用していないとしている。Emirates航空の機内食や国内の飲食店、小売店に卸している。
- Crop One（アメリカ）とEmirates（UAE）の合併企業である。



Badia Farms

- Omar Al Jundi（サウジアラビア国籍）とMaher Ezzeddineが立ち上げたアラブ首長国連邦（UAE）における最初の屋内垂直農場であり、ドバイを拠点としている。同社は、最先端の水耕栽培技術を活用し、土壌を使用せずに果物や野菜を栽培することによって、伝統的農法と比較して90%少ない水での生産を実現しているとしている。
- 完成し、100%の稼働率を迎えると、年間1,200トンの野菜を収穫可能としている。
- ドバイ政府系列の公的融資の他に、Green Corp（バーレーン）やGulf Islamic Investems（ドバイ）が投資したと報じられている。





ドバイの食料自給率向上に向けた政策（外資参入と公的資金による支援）

REFARM

- ReFARM™は、SSKグループの一部門であり、アラブ首長国連邦（UAE）のゼロウェイスト・脱炭素化食料安全保障イニシアチブを牽引、持続可能で自然な栽培ソリューションを提供し、UAEの国家食料安全保障戦略2051を支援している。SSK Enterprises（約50%）、Christof Global Impact（50%）、スコットランドIGS（数%）の合併企業である。
- UAE全体の青果輸入量の1%を国内栽培に置き換えるべくFood Tech Valley内に建設された植物工場（約90万平方フィート）であり、年間300万キロ（3,000トン）の収穫を目指して拡張中。伝統農業と比較して夏季は50%、冬季は80%の節水を達成している
- 生産物：ロメインレタス、ブロッコリー、カリフラワー、トマト、ナス、キュウリ、メロン、その他各種野菜および果物で、主な販売先は、Farm Well（卸）、KITOPI（ケータリング）、DAMAC（政府系デベロッパー）である。
- また、ReFARMは参加にIGS（垂直農法）やBioSAP（生分解性スーパー吸収ポリマー）、ReBiome（農業に役立つ微生物等）など複数の栽培ソリューション開発カンパニーを持っている。





アブダビの食料自給率向上に向けた政策（外資参入と公的資金による支援）

アブダビはドバイと比較すると、石油の埋蔵量も豊富にあり、保守的な政策を取る傾向にはあるが、食料自給率の向上にはドバイに劣らない規模の投資を行っている。

アブダビ政府は、2023年7月に食料安全保障データプラットフォームを立ち上げた。このプラットフォームは、335の指標から食料安全保障やバイオセキュリティ関連の予測、リスク警告、リアルタイムデータモニタリングを行い、より効率的な食料安全保障関連の政策の立案、意思決定に役立てる。

農作物や水産物の食料自給率を上げるためにアブダビ政府や関連ファンドは様々な事業者に投資を行ってきた。





アブダビの食料自給率向上に向けた政策（外資参入と公的資金による支援）

アブダビは、ドバイのようにFood Tech Valleyによるインフラ寄りの支援というよりは政府系ファンドによる投資や、政府系金融機関による融資に重きを置いている。

Pure Harvest Smart Farms

- 水耕栽培を通じて高品質な生鮮農産物を生産している。同社は、最新の環境制御技術を駆使し、年間を通じてトマト、葉物野菜、ベリー類など30種類以上の作物を栽培している。厳選された種子、豊富な日光、適切な温度と湿度管理により、優れた味わいを実現している。
- 農場は、消費地から100km以内の場所に位置しており、輸送距離の短縮により鮮度を保ち、カーボンフットプリントの削減にも寄与している。また、農場では有益な昆虫を利用した自然な害虫防除を行っており、農薬残留物のない安全な農産物を提供している。さらに、従来の露地栽培よりも30倍、砂漠地帯の温室農業よりも7倍効率的な生産を実現しているとしている。
- 生産物は地元の主要小売店やレストランで販売されており、輸入品よりも低価格で提供されている。Pure Harvestは、地域社会への投資と環境保護を重視し、持続可能な未来のための農業を実践している。

Madar Farms

- UAE企業で、IGS（イギリス系）と技術提携をしている。ADIOからAgTech Incentive Programmeの一環として、10億AEDの投資を受けている。
- 垂直農法や水耕栽培などの先進的な技術を採用し、砂漠気候でも効率的に作物を栽培している。また、環境への影響を最小限に抑えるため、再生可能エネルギーの利用や水の再利用にも取り組んでいる。Madar Farmsは、地域の食料安全保障を強化し、持続可能な農業の未来を築くことを目指している。
- 完成し100%の稼働率になると、年間30トンの野菜を収穫可能としている。



サウジアラビアの食料自給率向上に向けたアプローチ

サウジアラビアは代々サ우드家による絶対王政がとられており、7つの首長国からなる連邦国家から成るUAEと比較すると明確な政策がとられている。政府が**国家戦略方針（Saudi Arabia's Vision 2030）**を発表し、パブリック・インベストメント・ファンドやその他政府系・民間ファンドが投資、民間事業者または官民合弁会社が実行していくという大まかな流れができています。

サウジアラビアは人口（約3,700万人）に対して自国民が約60%（約2,200万人）とされており、UAEよりも自国民の絶対数・比率ともに高いことから、**食料自給に対する考え方はより積極的尚且つ貿易よりも自国生産に重きを置いた政策**となっている。特に鶏卵や鶏肉は自給率がそれぞれ117%、68%と輸出する余力があるほど自国での生産が活発である。農作物に関しても、ナス（105%）、パパイア（103%）、オクラ（103%）と100%を超えているものが多く見られる。一方で、現代の技術革新では屋内生産が難しいとされる農産物（特に穀物）は海外の農地や生産者に投資をする手法が取られている。

サウジアラビアでは、パブリック・インベストメント・ファンド（PIF）を筆頭に、傘下の**サウジ農業・家畜投資会社（SALIC）**、政府系ファンドである**サウジアラビア農業開発基金（ADF）**、半国有企業の**ARAMCOの成長投資部門**である**Wa'ed Ventures**もが国内外の農地や生産者に積極的な投資を行い、垂直栽培や水耕栽培など貴重な水資源の有効活用ができる持続可能な農業を営む事業者が増えている。





サウジ農業・家畜投資会社（SALIC）による国内外の生産者や農地への投資・買収

サウジアラビア国内		海外					
Almarai (酪農・畜産)	2021年 16.32%	オーストラリア Merredin Farms (米)	2018年 100%				
Alasmak (水産)	2021年 39.99%	ウクライナ Continental Farmers Group (穀物)	2013年 100%				
Nadec (酪農・畜産)	2021年 38.65%	オーストラリア Minerva Foods Australia (牛肉)	2015年 75%				
National Aquaculture Group (水産)	2023年 42.4%	シンガポール Olam Agri (穀物卸)	2016年 30.55%				
National Grain Company (穀物卸)	2020年 50%	インド LT Foods (米)	2023年 11.03%				
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>国名</th> <th>取得年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業名 (取り扱い製品)</td> <td>取得%</td> </tr> </tbody> </table>	国名	取得年	企業名 (取り扱い製品)	取得%
国名	取得年						
企業名 (取り扱い製品)	取得%						



サウジアラビアの食料自給率向上に向けた政策（外資参入と公的資金による支援）

サウジアラビアの水資源（地下水）の枯渇がここ数十年に渡り懸念されてきたが、本来の予測である2080年頃よりも格段に早い時期に水資源の枯渇可能性が最近の研究で判明しており、国内の水の総需要の80%を占めると言われる農業用水の節水技術の導入が政府の喫緊の課題となっている。野菜や果実によって生育環境が異なることから、政府は次の4つの栽培方法を推進すると共に多額の補助・支援予算を発表している。

- Vertical Farming：垂直栽培
- Greenhouses：ハウス栽培
- Hydroponics：水耕栽培
- Aquaponics：水耕栽培と水産養殖の組み合わせ

PIFは毎年度4兆円の投資を行うことを発表しているが、農業分野にどれだけの予算が割かれているのかは不明である。一方で農業開発基金（ADF）は2023年度は1,000～2,000億円規模の予算を投資や低金利ローンに割いており、2024年も同等かそれ以上の規模で組まれるものとみている。

サウジアラビアでは投資・融資対象によって大まかな棲み分けがされている。





サウジアラビアの食料自給率向上に向けた政策（外資参入と公的資金による支援）

AeroFarms and PIF Vertical Farm

- AeroFarms（米国）は、2023年2月1日にサウジアラビアの公共投資基金（PIF）と共同事業契約を締結し、サウジアラビアおよび中東・北アフリカ（MENA）地域における最大規模の屋内垂直農場の建設・運営を行う新会社をリヤドに設立することを発表した。耕作地を必要としない屋内垂直農法を導入し、自然資源の最適利用により、従来の露地栽培と比較して最大95%の水削減と大幅な収量増加が期待されている。完成すれば年間110万キロ（1,100トン）の野菜を収穫可能としている。



YesHealth Group and Mowreq Vertical Farm

- Mowreq Specialized Agricultureは、2019年に設立され、サウジアラビアにおける屋内垂直農業のパイオニアとして、ジェッダ工場で生産された農作物をジェッダだけでなくリヤドなど複数都市のレストランや小売店に供給している。
- 2022年12月、MowreqはYesHealth Groupと合併事業を開始し、サウジアラビア全土で新鮮な農産物のインフラを開発する計画を発表した。この合併事業の最初のプロジェクトとして、リヤドに高さ15メートル、19層からなる中東・北アフリカ地域（MENA）で最も高い垂直農場を建設している。この農場は、1日あたり2,200キログラムの葉物野菜を生産する能力を持ち、2025年4月に初収穫、5月から本格稼働を予定している。
- 日本企業との技術提携や技術導入にも積極的で、2025年には日本から植物工場の洗浄液や肥料のサンプル試験を行っている。





サウジアラビアの食料自給率向上に向けた政策（外資参入と公的資金による支援）

日本企業の参入例

ZERO, Tamini, and Mitsui（三井物産）

- 三井物産は、イタリアのスタートアップ企業ZERO社およびサウジアラビアの主要小売業者であるTamini Markets社と共同で、サウジアラビアにおける植物工場事業を展開している。この共同事業は、2022年4月に設立された合併会社「Green Dunes」を通じて行われている。サウジアラビア流通最大手のTamini Marketsと組むことで出口も確保している。
- 2023年12月に工場が完成、2024年の第2四半期から出荷開始予定であり、年間生産目標は葉物野菜100トン、イチゴ50トンとしている。将来的には農産物だけでなく、医薬品原料の開発も目指している。
- 垂直栽培の中でも、ミスト状の培養液を散布する空中栽培方式を採用している。
- 2023年時点の三井物産のZERO社に対する投資額は750万ユーロ（4%）と発表されている。



サウジアラビアの食料自給率向上に向けた政策（外資参入と公的資金による支援）

その他の外資参入

iFarm（デンマーク）

デンマークの種子育成や垂直栽培技術を研究している企業

投資・支援事例

Green Basket

- 2022年稼働開始予定の垂直栽培工場
- 900m²の栽培エリアで月間23トン（年間概算276トン）の収穫を目指す
- 稼働状況は確認できず

Bather Smart Farm

- 2021年に完成した垂直栽培工場
- 2,500m²の栽培エリアで月間16トン（年間概算192トン）の収穫を目指す
- 稼働状況は確認できず





他国の研究機関・教育機関・財団による支援事例

Agropolis Fondation Doctoral Fellowships

- フランス政府が主たる支援者の財団が提供する学費や研究費の支援
- 3年間の農業科学技術研究コースが対象に入っている

Orange Knowledge Programme (Netherlands)

- オランダ外務省が主たる支援者の留学プログラム
- 垂直栽培など、農業科学技術に関するインターンや研究費の支援

Canadian International Development Research Centre (IDRC)

- カナダ政府が途上国支援の目的で設立した研究所
- 農業科学技術を先行する学生に向けた奨学金
- UBCやGuelph大学のコースが対象に入っている



UAE、サウジアラビアで農業生産資材や工場運営等の技術提供を行っている企業

企業名	所在地、電話番号、ウェブサイト	植物工場としての稼働	現在の事業内容と展望	生産品目年間数量
Mishkat Greenhouse and Vertical Farm	ジエッダ、サウジアラビア 不明 ウェブサイトURL	○	サウジアラビアの農業技術分野で技術革新を推進しており、持続可能性、栄養、技術力を組み合わせた食料生産の革命を目指している。・同社は水耕栽培の温室と垂直農法を活用し、高品質な野菜を生産。・2024年4月のインタビューでは、ジッダの垂直農場の生産能力を2倍に拡大する計画や、サウジアラビア国内の他都市への展開を予定していることが報告されている。	20~30種類以上のレタス、葉物野菜、ハーブを栽培。具体的な年間生産量は不明。
Al Watania Agriculture Company ※Al Watania Organicの運営母体と思われる	リヤド、サウジアラビア '+966 11 265 1525 ウェブサイトURL	○	農業、食品、オリーブオイル製造の分野の先駆者であり、GCCで最大のトマト加工業者の1つ。同社は、過去30年間、サウジアラビアに新鮮で健康的な食品を提供し続けている。 ※HPは長期間更新中のようなのである。	トマト等。年間生産量は不明
iyris (旧：Red Sea Farms)	アブダビ、UAE 不明 ウェブサイトURL	確認できず	Red Sea Farmsはiyrisとして農業技術の開発と商業化に専念するテクノロジー企業としてリブランディングされた。2023年12月、Pure Harvest Smart FarmsがRed Sea Farmsのサウジアラビアにおける既存の6ヘクタールの制御環境農業（CEA）生産施設を取得する意向書（LOI）を締結。iyrisは、過酷な環境でも農業の生産性を向上させるためのアグリクライメイト技術を開発する企業となっている。同社は、特に高温地域に適した技術を提供し、持続可能な農業の実現を目指している。	
Saudi Greenhouses Management and Agri Marketing Co	ジッダ、サウジアラビア '+966 11 47 67 111 ウェブサイトURL	○	1983年に設立され、サウジアラビア国内で100ヘクタール以上の温室を管理。トマト、キュウリ、レタス、ハーブなどの高品質な野菜を生産し、主要な小売業者に供給。	トマト、キュウリ、レタス、ハーブなど35種類の野菜を生産しているが、具体的な年間生産量は不明。
Naqaa Solutions	ジッダ、サウジアラビア +966 5 499 005 40 ウェブサイトURL	確認できず	Naqaa Solutionsは、リサイクル製品およびサービスを提供し、サウジアラビアの企業が持続可能なビジネス循環性に向けた取り組みを支援。同社は、リサイクルシステムの構築と維持を通じて、企業がリサイクル可能な資源を最適化し、ゼロ・ウェイスト（廃棄物ゼロ）を達成することを目指す。	
Saudi Arabian Hydroponic	アル・コバル、サウジアラビア +966 553899979 ウェブサイトURL	○	同社は、水耕栽培技術を用いて高品質な野菜を生産し、サウジアラビア市場での販売を行っている。また、農業用温室の設計・設置、関連技術や付属品の販売、さらに作業員や監督者の育成・指導も手掛けている。戦略的パートナーである韓国のグローバル企業と協力し、製品ラインナップの拡大や事業の拡大を計画。	レタス、トマト、キュウリ、ミントなど12種以上。年間生産量は不明
Desert Agriculture	ダンマム、サウジアラビア '+966 13 817 4545 ウェブサイトURL	確認できず	砂漠における食料安全保障の課題を解決するため、革新的で持続可能な水耕栽培システムを提供。これらのシステムは、砂漠の気候に特化して設計されており、地元の農家が年間を通じて持続可能な作物を栽培できるよう支援している。同社は、サウジアラビアの農家のニーズに合わせて最新の技術を提供し、25年近くわたる農業業界での経験を活かしている。	



UAE・サウジアラビアにおける日本企業の投資機会

UAE、サウジアラビア共に農業（垂直栽培）、水産業（海上・陸上養殖）、淡水化プラント事業において、外資の参入や現地政府ファンドとの合弁企業の立ち上げが見られる。

垂直栽培は、大型工場の本格稼働はまだ現地で確認が取れていないが、段階的に稼働しているところは複数ある。UAEブスタニカで製造された農産物が、現地のスーパーマーケット（Spinney'sやWaitrose、Carrefour等）で購入することが可能であったり、機内食で採用されていたりし、試験的な製造のフェーズを抜け本格的な商業利用のフェーズに入っている。室温管理のために当初想定されていた電力使用量を大幅に上回っているという声もあるが、太陽光の活用などで補える範囲と見ている専門家も多い。

水産品の養殖は、10万トン以上の生産キャパシティを持ったところも稀ではなく、成熟してきているように見えるが、食料自給率は50%に達しておらず、政府としてはまだまだ拡大の余地があると見ている。主な生産品はエビや、ハタ、ハムール、サーモンとなっており、それらの品種の生産を拡大させる汎用性のある技術や、UAEでは生産を行ってなくても、市場で需要があり尚且つ日本企業が生産を得意とする品種であれば、事業の参入チャンスはあるようである。UAEの政府（MOCCA）としても日本企業の水産養殖の技術は高く評価しており、様々な企業による事業参入を期待している。



平成30年度（2018年度）時点で確認されていた植物工場及びに研究施設の情報

下記の植物工場は現状確認が取れなかった

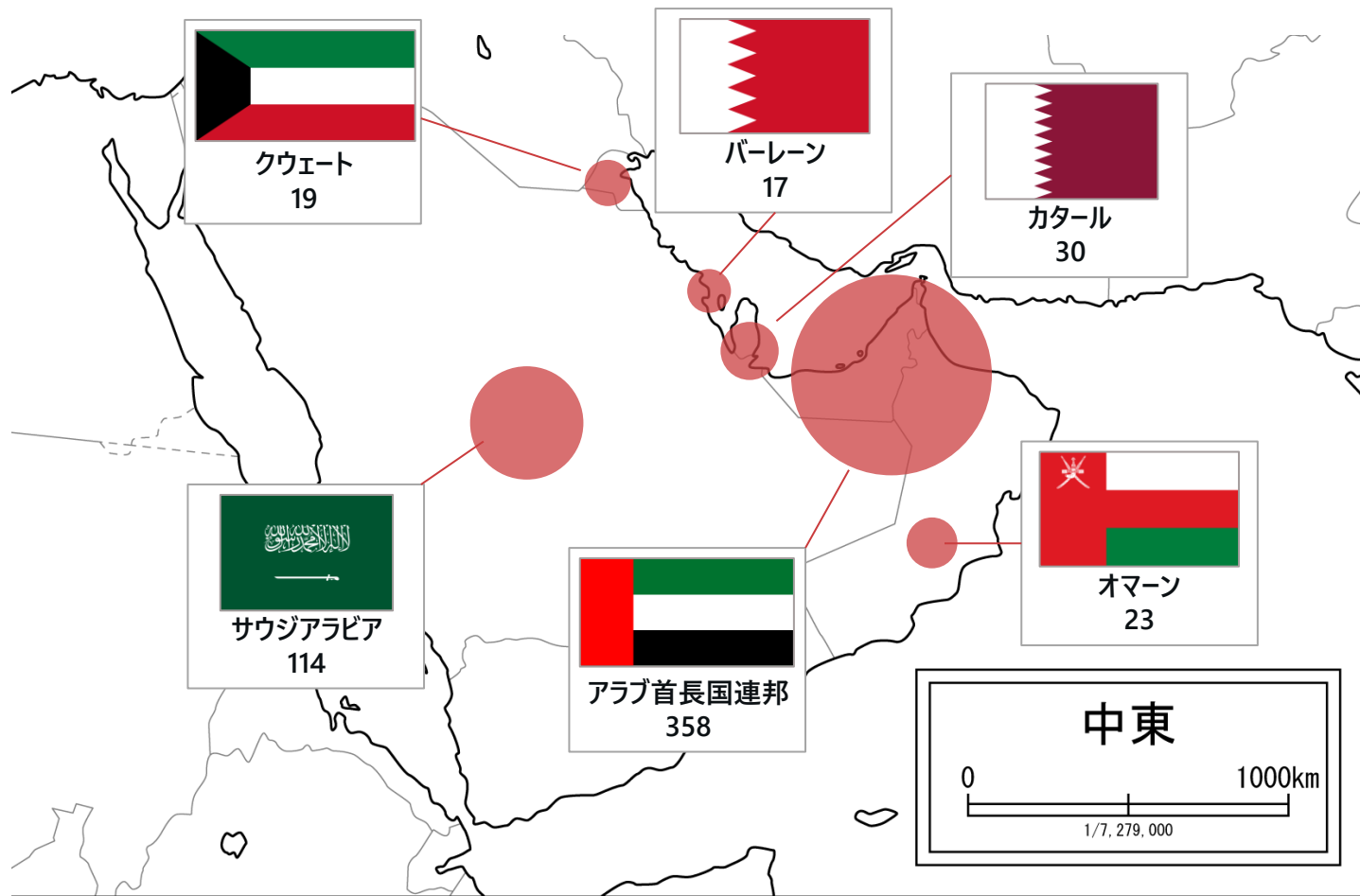
- Desert Greens
- Green Space Vertical Farms
- Agritech Vertical Farm



外食産業に関する調査



GCC各国の日本企業拠点数

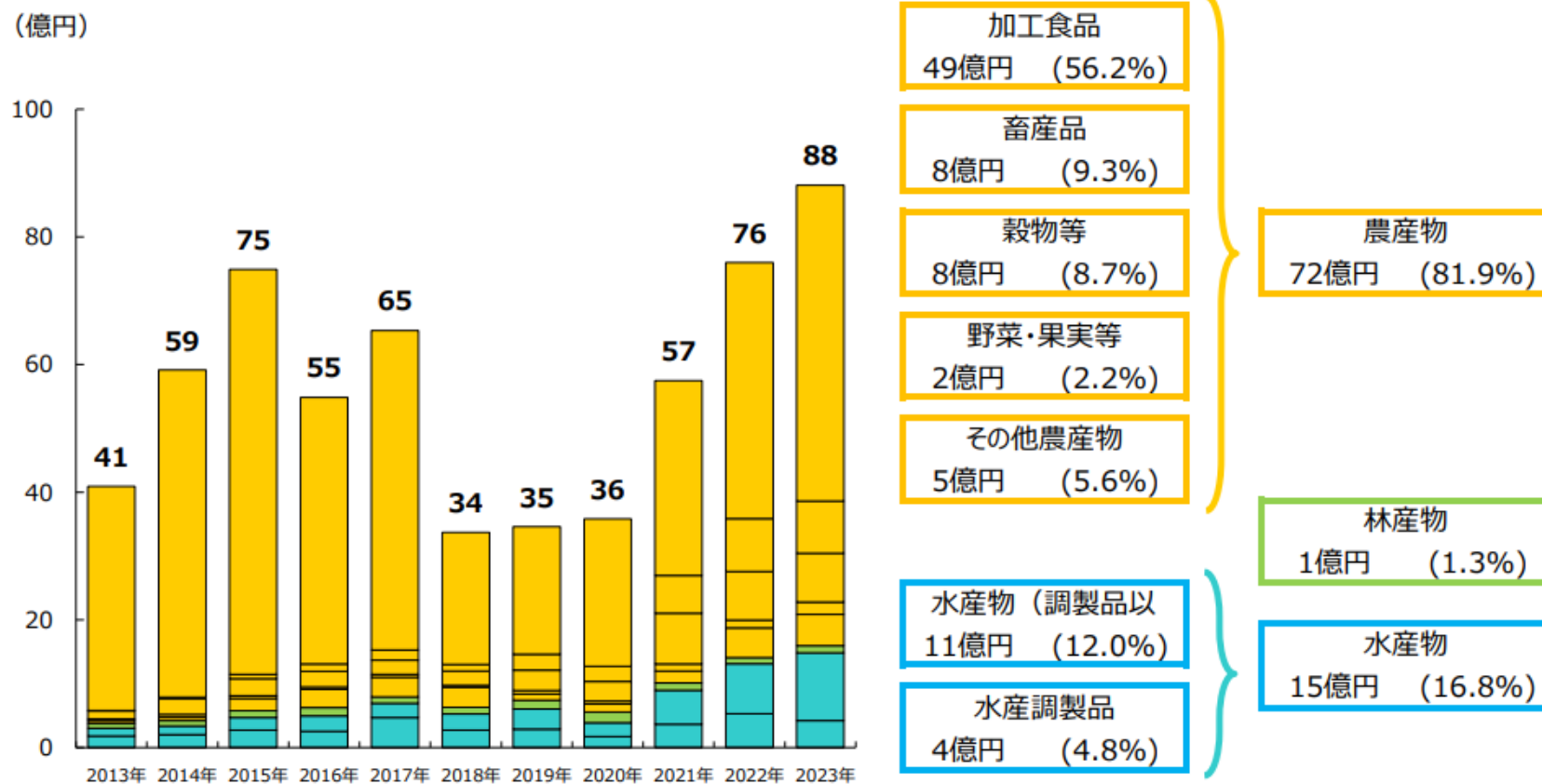


白地図専門店 freemap.jp



【参考】UAEにおける日本からの食品輸出状況

2023年の輸出額は88億円。（世界19位、前年比 +15.9%）



※ カッコ内は全体に占める割合



【参考】UAEにおける日本からの食品輸出状況

輸出額上位品目は、清涼飲料水、牛肉、ソース混合調味料。

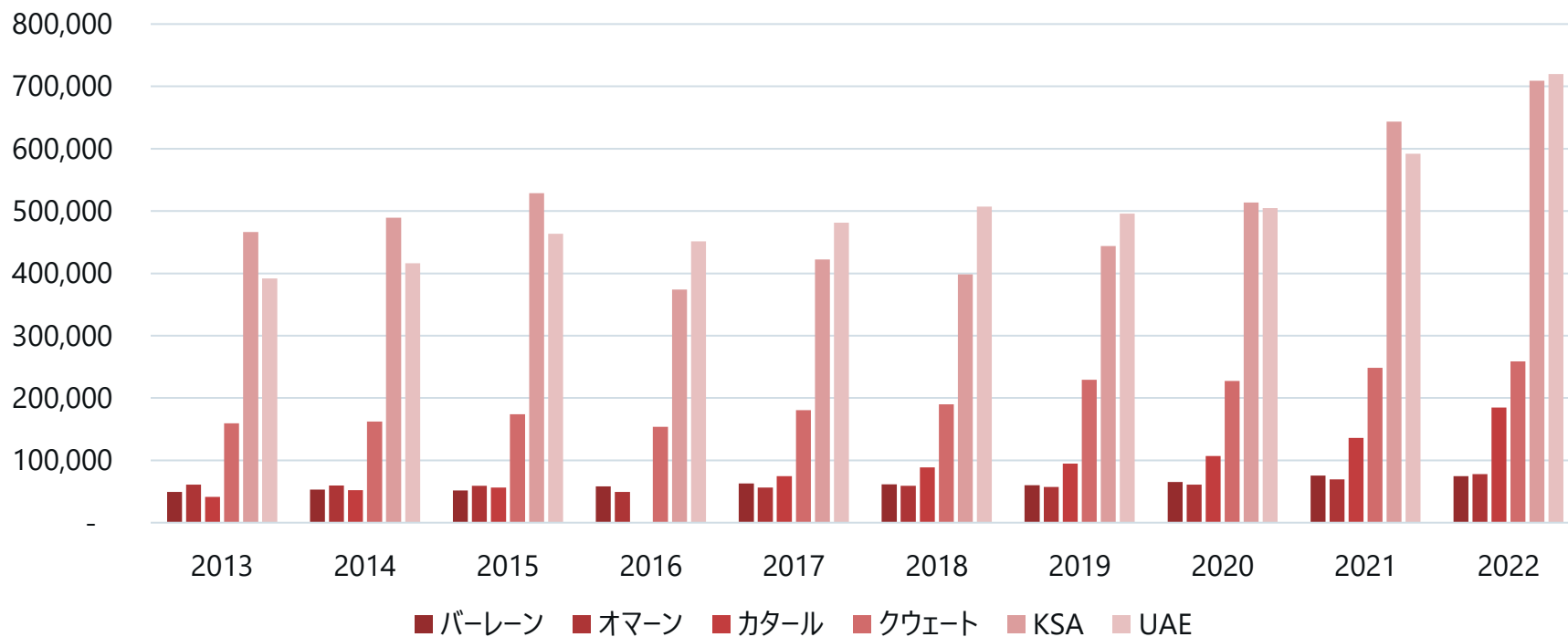
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1	清涼飲料水 2,891百万円	清涼飲料水 4,343百万円	清涼飲料水 5,405百万円	清涼飲料水 3,133百万円	清涼飲料水 4,097百万円	清涼飲料水 1,371百万円	清涼飲料水 1,251百万円	清涼飲料水 1,627百万円	清涼飲料水 1,411百万円	清涼飲料水 1,769百万円	清涼飲料水 2,250百万円
2	菓子（米菓を除く） 261百万円	菓子（米菓を除く） 383百万円	菓子（米菓を除く） 491百万円	菓子（米菓を除く） 436百万円	菓子（米菓を除く） 240百万円	配合調製飼料 222百万円	牛肉 228百万円	牛肉 227百万円	牛肉 574百万円	牛肉 820百万円	牛肉 807百万円
3	ソース混合調味料 94百万円	ソース混合調味料 108百万円	ソース混合調味料 135百万円	配合調製飼料 185百万円	配合調製飼料 234百万円	ソース混合調味料 200百万円	ソース混合調味料 221百万円	ソース混合調味料 226百万円	ソース混合調味料 360百万円	ソース混合調味料 505百万円	ソース混合調味料 548百万円
4	練り製品（魚肉ソーセージ等） 80百万円	練り製品（魚肉ソーセージ等） 79百万円	練り製品（魚肉ソーセージ等） 130百万円	ソース混合調味料 144百万円	魚等缶詰 218百万円	練り製品（魚肉ソーセージ等） 166百万円	練り製品 152百万円	菓子（米菓を除く） 138百万円	菓子（米菓を除く） 217百万円	たばこ 328百万円	菓子（米菓を除く） 363百万円
5	アルコール飲料 58百万円	キャビア及びその代用物 61百万円	配合調製飼料 107百万円	練り製品（魚肉ソーセージ等） 142百万円	ソース混合調味料 172百万円	菓子（米菓を除く） 97百万円	キャビア及びその代用物 121百万円	木炭 123百万円	アルコール飲料 217百万円	菓子（米菓を除く） 308百万円	ぶり 354百万円
6	キャビア及びその代用物 44百万円	木炭 49百万円	キャビア及びその代用物 85百万円	牛肉 113百万円	牛肉 146百万円	キャビア及びその代用物 94百万円	ぶり 109百万円	練り製品 100百万円	練り製品 174百万円	アルコール飲料 297百万円	かつお・まぐろ類 259百万円
7	木炭 38百万円	アルコール飲料 48百万円	牛肉 67百万円	アルコール飲料 91百万円	練り製品（魚肉ソーセージ等） 126百万円	アルコール飲料 90百万円	木炭 96百万円	アルコール飲料 74百万円	かつお・まぐろ類 168百万円	練り製品 255百万円	キャビア及びその代用物 214百万円
8	かつお・まぐろ類 24百万円	かつお・まぐろ類 41百万円	木炭 66百万円	木炭 82百万円	アルコール飲料 123百万円	かつお・まぐろ類 88百万円	菓子（米菓を除く） 88百万円	かつお・まぐろ類 73百万円	キャビア及びその代用物 137百万円	ぶり 243百万円	緑茶 188百万円
9	ぶり 23百万円	干しの 焼酎の 味付けのり 30百万円	かつお・まぐろ類 46百万円	キャビア及びその代用物 81百万円	キャビア及びその代用物 87百万円	牛肉 87百万円	かつお・まぐろ類 87百万円	キャビア及びその代用物 57百万円	ぶり 126百万円	かつお・まぐろ類 203百万円	たばこ 172百万円
10	干しの 焼酎の 味付けのり 21百万円	ぶり 28百万円	アルコール飲料 45百万円	かつお・まぐろ類 46百万円	木炭 70百万円	木炭 75百万円	アルコール飲料 86百万円	醤油 55百万円	醤油 98百万円	キャビア及びその代用物 200百万円	練り製品 150百万円



GCC各国の牛肉輸入金額推移（2013～2022）

GCC全体では、20億ドルの牛肉がGCCに輸入されている。その内70%をUAEとサウジアラビアが占めている。

GCC各国の牛肉輸入金額（千ドル）



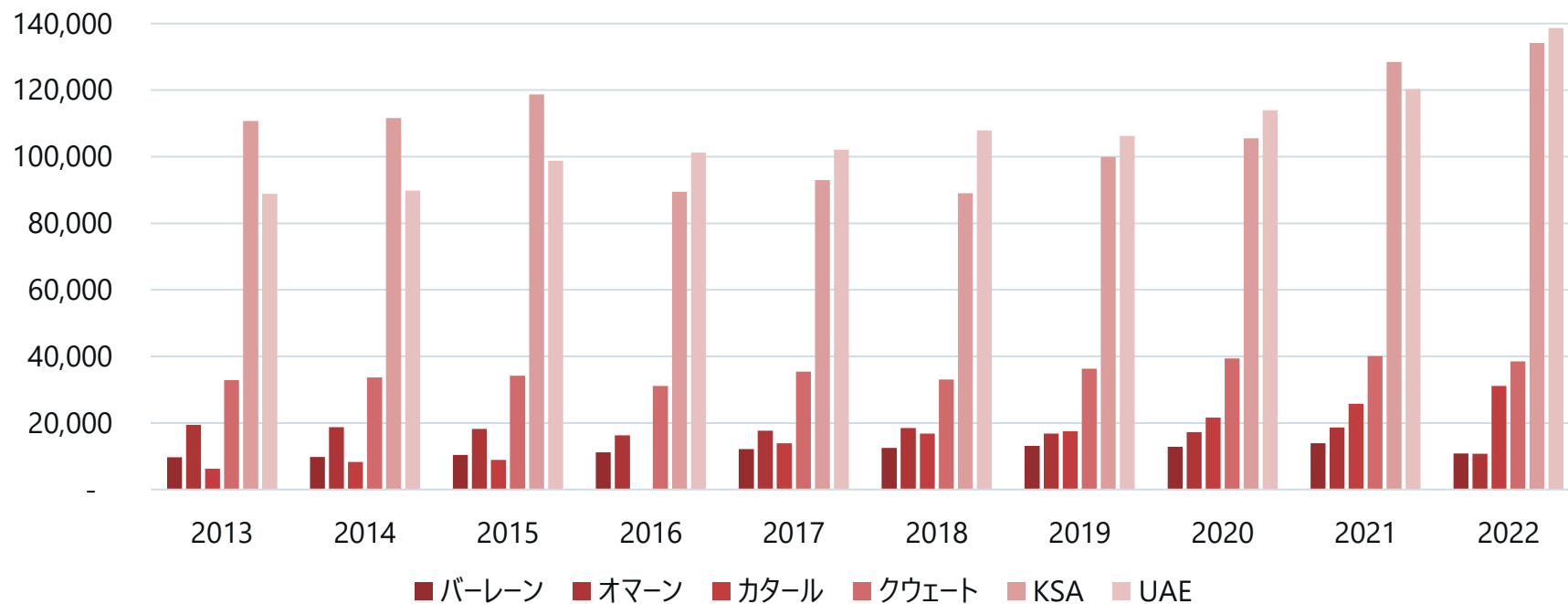
※輸入金額から輸出金額を引いた純粋な輸入金額である。



GCC各国の牛肉輸入量推移（2013～2022）

GCC全体では、36万トンの牛肉がGCCに輸入されている。その内70%をUAEとサウジアラビアが占めている。

GCC各国の牛肉輸入数量（トン）

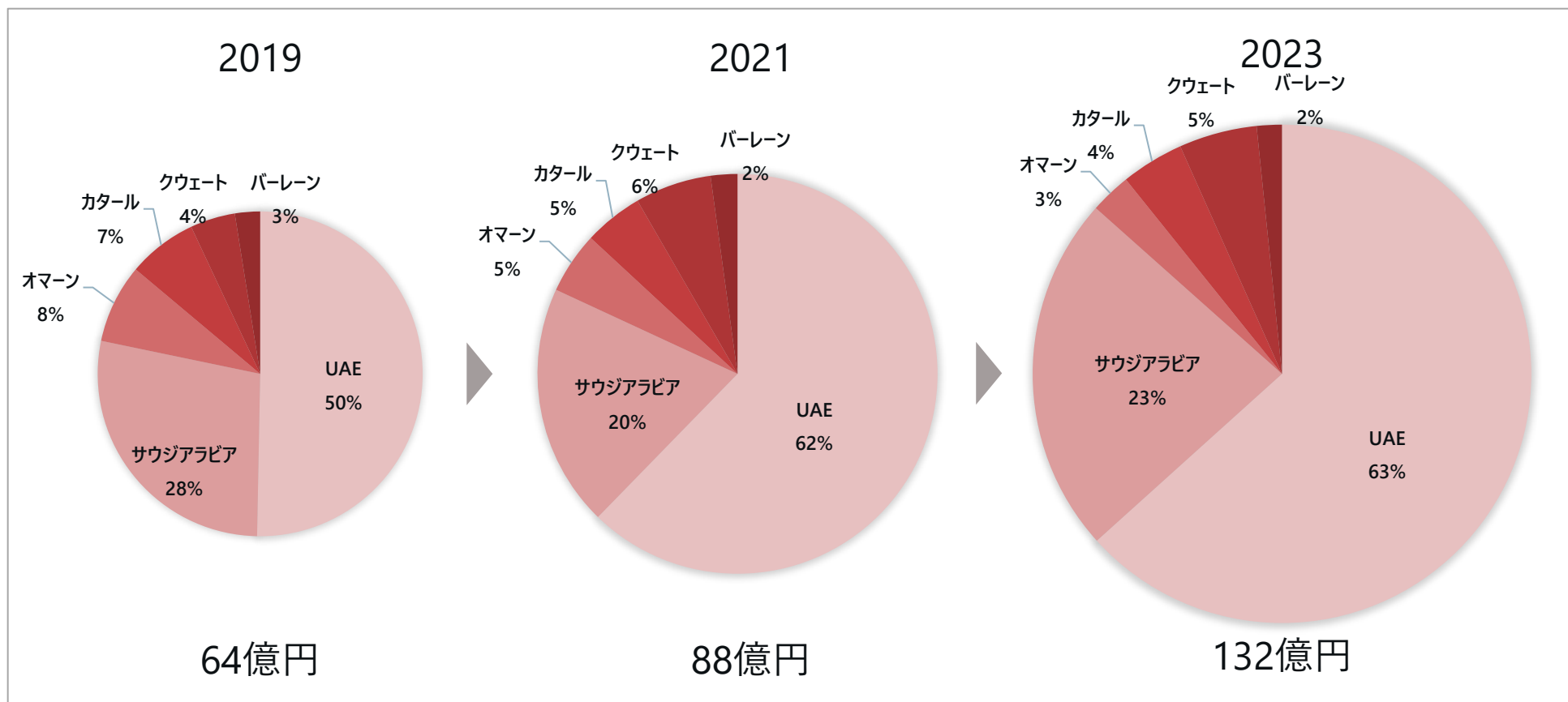


※輸入量から輸出量を引いた純粋な輸入量である。



GCC各国の日本からの食品・飲料の輸入額推移

2019年から2023年にかけて、輸出額は倍増し、特にUAEは大きく成長した。

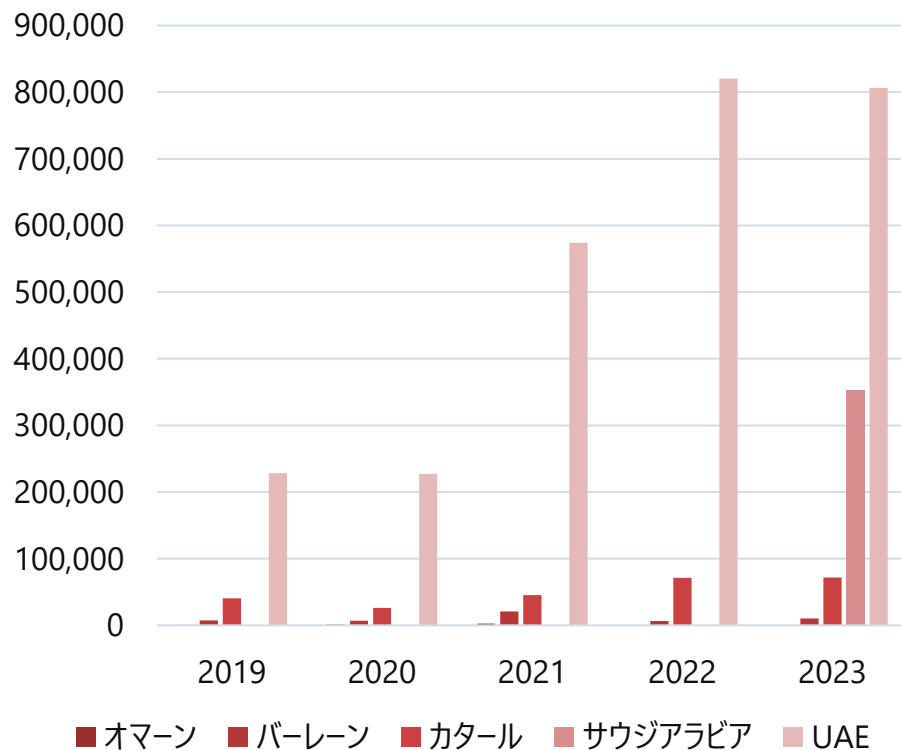




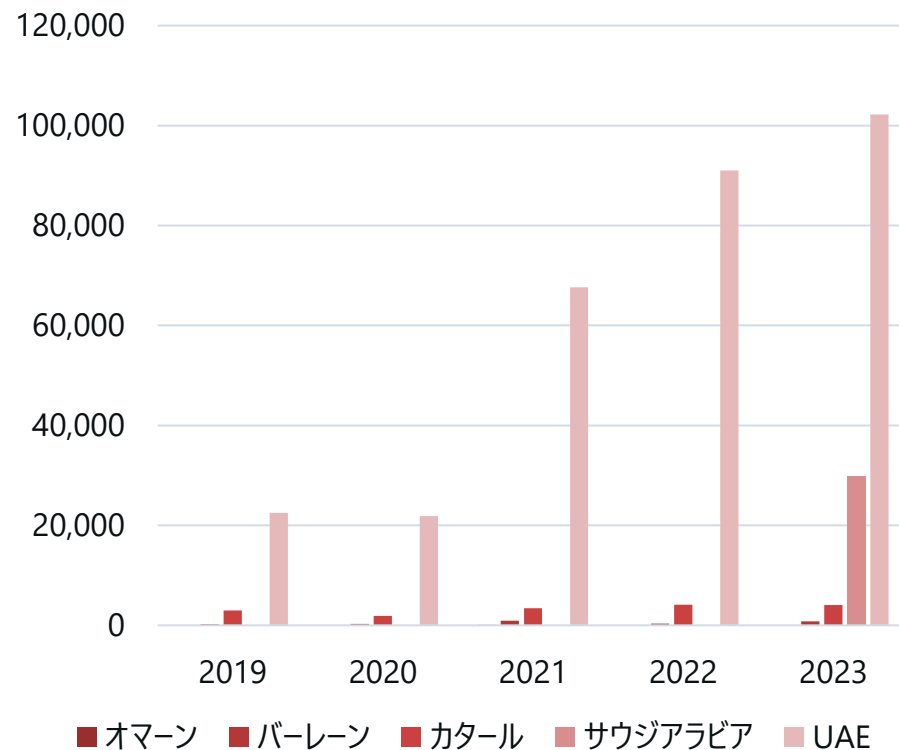
GCC各国の日本からの牛肉輸入金額・量推移

2023年度は、約12億円分の和牛がGCCに輸出され、その内66%はUAEに向かった。

GCC各国の日本から和牛輸入金額（千円）

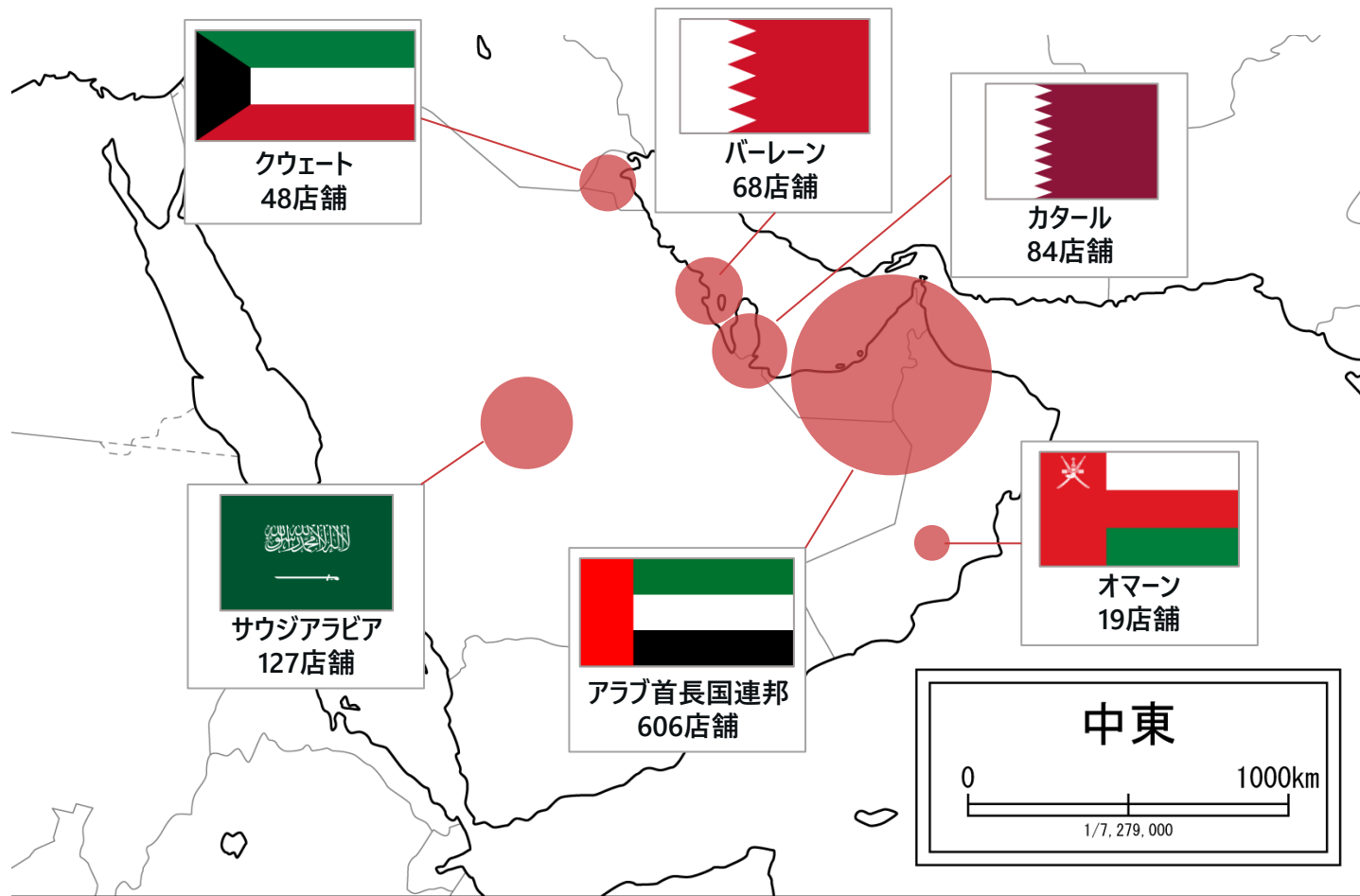


GCC各国の日本から和牛輸入量（トン）





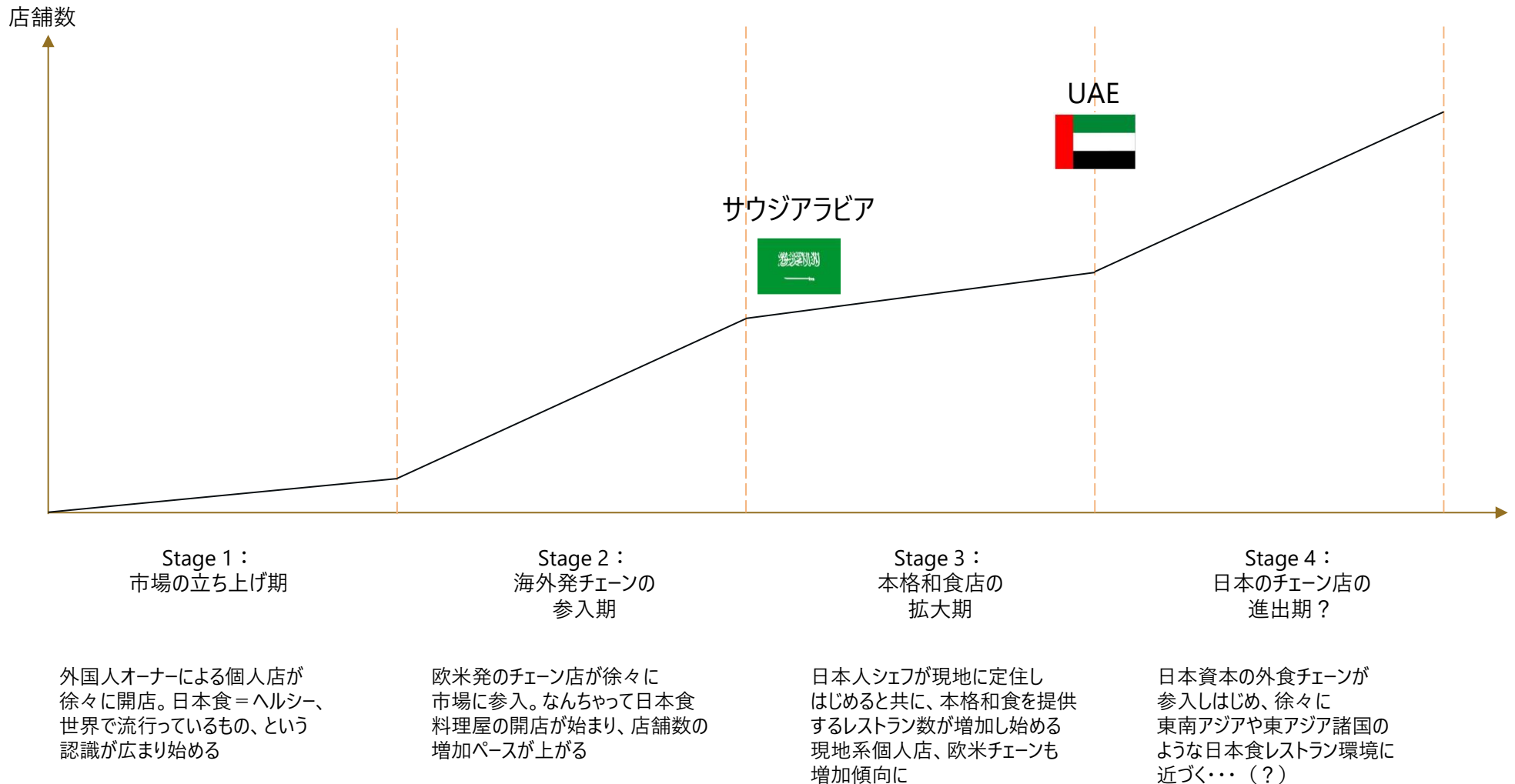
GCC各国の日本食を提供する飲食店 店舗数



白地図専門店 freemap.jp



中東における日本食レストランの普及ステージと各国の状況





サウジアラビアの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例



店舗名：Robata
提供名：A5 Wagyu Kushi
価格：SAR 355.00 (14,068円)



店舗名：Myazu Riyadh
提供名：A5 Wagyu Steak
価格：SAR 649.00 (25,720円)



店舗名：TAKARA
提供名：Truffle Wagyu Steak
価格：SAR 338.00 (13,395円)



店舗名：BYO Restaurant
提供名：Wagyu Beef Gyoza
価格：SAR 90.00 (3,567円)



店舗名：Gold Sushi Club
提供名：Wagyu Beef Kushiyaki
価格：SAR 98.00 (3,884円)



店舗名：KINTAN SAUDI
提供名：AUS Wagyu Striploin Steak
価格：SAR 180.00 (7,133円)



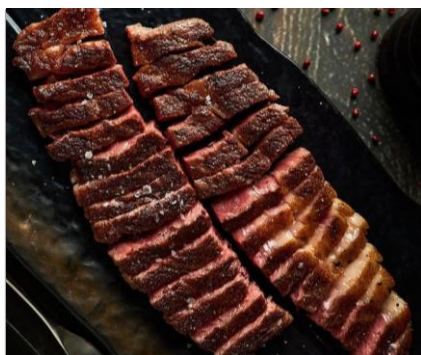
店舗名：White Robata
提供名：Wagyu Sando
価格：SAR 130.00 (5,120円)



店舗名：COYA Saudi Arabia
提供名：Wagyu Tartare
価格：SAR 110.00 (4,360円)



UAEの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例



店舗名：AKIRA BACK
提供名：Kiwami Ribeye 9+ (Wagyu)
価格：AED 495.00 (20,033円)



店舗名：Armani Hashi Restaurant
提供名：Robata Tajima(G,SB,SS,Wagyu)
価格：AED 1,499.00(コースの一部)
(60,664円)



店舗名：ZUMA Dubai
提供名：A4 wagyu suteiki, taheen mayo to nama wasabi
価格：AED 750.00 (30,353円)



店舗名：Netsu by Ross Shonhan
提供名：WAGYU KUSHIYAKI
価格：AED 70.00 (2,833円)



店舗名：OKKU
提供名：Wagyu Himalayan Shioyaki
価格：AED 299.00 (12,101円)



店舗名：HISAYA
提供名：Wagyu Burger
価格：AED 70.00 (2,833円)



店舗名：HAKKASAN
提供名：Jasmine tea smoked Wagyu beef ribs
価格：AED 175.00 (7,082円)



店舗名：3Fils
提供名：GYU TOAST (A5 Wagyu)
価格：AED 129.00 (5,221円)



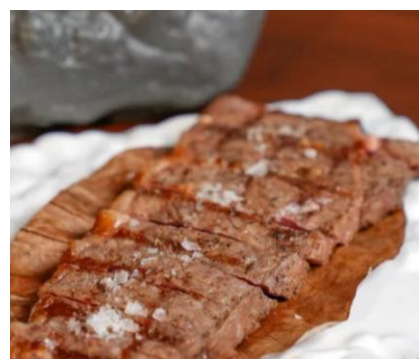
カタールの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例



店舗名：Nobu Doha
提供名：Anticucho Peruvian Rib Eye
Steak
価格：QAR 320.00（13,008円）



店舗名：Sushisamba
提供名：Wagyu Gyoza
価格：QAR 95.00（3,862円）



店舗名：TONO
提供名：Wagyu Tajima Striploin
価格：QAR 290.00（11,789円）



店舗名：Shanghai Me
提供名：A5 Wagyu Nigiri Duo, Caviar
& Truffle
価格：QAR 185.00（7,520円）



店舗名：Soy by Sato
提供名：Charcoaled Flamed Wgyu
Steak (MB7)
価格：QAR 220.00（8,943円）



店舗名：Neo Restaurant
提供名：Glazed Wagyu Tenderloin
価格：QAR 200.00（8,130円）



店舗名：B-Lounge Doha
提供名：Wagyu Beef Tsukune
価格：QAR 135.00（5,488円）



店舗名：Nozomi Doha
提供名：Wagyu Beef (AUS, grade9+)
価格：QAR 440.00（17,886円）



バーレーンの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例



店舗名：Clay Bahrain
提供名：Wagyu Afumado 9+
価格：BHD 29.000 (11,397円)



店舗名：Sato
提供名：Wagyu Teppanyaki
価格：BHD 28.000 (11,004円)



店舗名：Mirai
提供名：Wagyu Striploin 7+
価格：BHD 39.000 (15,327円)



店舗名：GYUTO
提供名：Wagyu Striploin
価格：BHD 28.000 (11,004円)



店舗名：RAMENARA
提供名：STEAK FRITES
価格：BHD 23.000 (9,039円)



店舗名：Haus
提供名：Wagyu Tacos
価格：BHD 7.000 (2,751円)



店舗名：To Meat Co.
提供名：Kiwami Wagyu Ribeye 9+
価格：BHD 75.000 (29,475円)



店舗名：The Butcher's Knife
提供名：Wagyu Tomahawk Steak(AUS, 8/9)
価格：BHD 49.000 (19,257円)



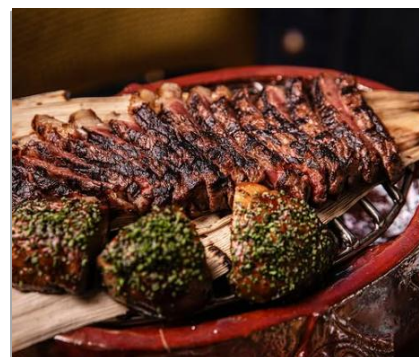
オマーン・クウェートの飲食店で見られる和牛・Wagyuの提供例



店舗名：Akiko
提供名：USDA Ribeye
価格：OMR 21.00（8,087円）



店舗名：Siddharta Lounge by Buddha-Bar
提供名：Wagyu Rib Eye
価格：OMR 29.00（11,167円）



店舗名：COYA Muscat
提供名：Bife Angosto Wagyu
価格：OMR 46.00（17,715円）



店舗名：Steak Company
提供名：Wagyu Ribeye
価格：OMR 34.9（13,440円）



店舗名：Roka Kuwait
提供名：Wagyu rib eye(AUS, 9+)
価格：KWD 42.50（20,451円）



店舗名：Fourseasons Hotel Kuwait
提供名：Stone Pot Rice Wagyu Beef
価格：KWD 17.50（8,421円）



店舗名：BENIHANA
提供名：Wagyu Beef
価格：KWD 9.500（4,571円）



店舗名：Odachi
提供名：Kiwami Wagyu Crispy Rice
価格：KWD 8.250（3,972円）



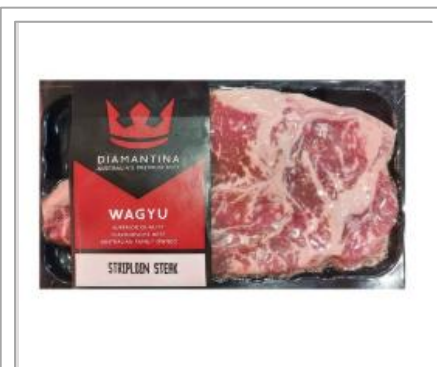
サウジアラビアの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格



小売名：tamimi markets
 商品名：Wagyu Beef Tenderloin-2.0 kg(AUS)
 価格：SAR 1,139.90 (2,258円/100g)



小売名：tamimi markets
 商品名：Wagyu Beef Cube Roll-2.0 kg(AUS)
 価格：SAR 959.90 (1,902円/100g)



小売名：carrefour
 商品名：Diamantina Australian Wagyu Striploin Steak 250g
 価格：SAR 122.90 (1,948円/100g)



小売名：carrefour
 商品名：Ribeye Wagyu Per 1Kg(KSA)
 価格：SAR 128.9 (511円/100g)



小売名：Dark cow trading
 商品名：Japanese Wagyu Tender Loin L 5.6kg
 価格：SAR 5,313.00 (3,760円/100g)



小売名：Dark cow trading
 商品名：Japanese Wagyu Strip Loin L 7.2kg
 価格：SAR 6,375.60 (3,509円/100g)



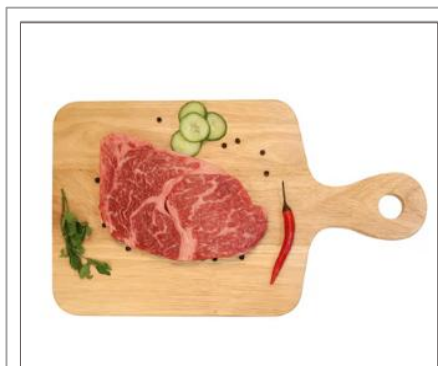
小売名：Dark cow trading
 商品名：Japanese Wagyu Ribeye L 5.3kg
 価格：SAR 4,693.15 (3,711円/100g)



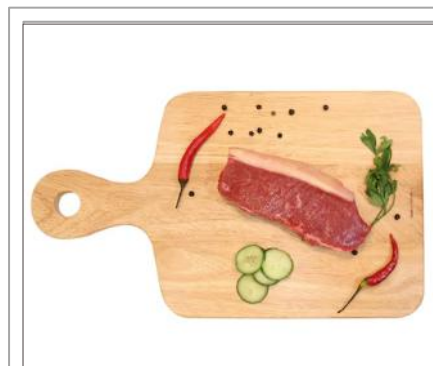
小売名：Dark cow trading
 商品名：Japanese Wagyu Rib cap L 2.1kg
 価格：SAR 796.95 (1,504円/100g)



UAEの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格



小売名：carrefour
 商品名：Australian Wagyu Beef Ribeye Steak 300g
 価格：AED 118.30 (1,596円/100g)



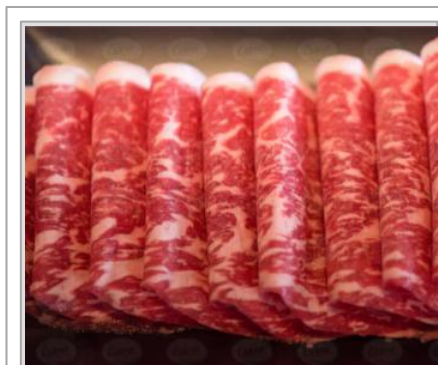
小売名：carrefour
 商品名：Australian Wagyu Beef Striploin Steak 1kg
 価格：AED 374.45 (1,515円/100g)



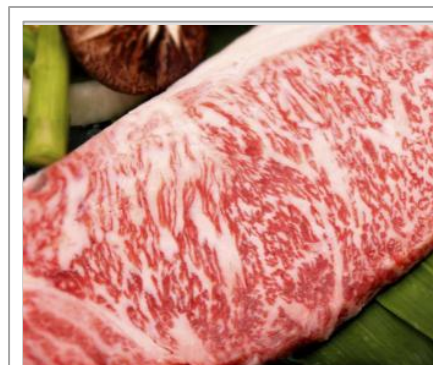
小売名：Choithram
 商品名：Beef Parcel Steak Wagyu(AUS) 1kg
 価格：AED 93.90 (380円/100g)



小売名：Choithram
 商品名：Beef Stir Fry Wagyu(AUS)1kg
 価格：AED 93.90 (380円/100g)



小売名：La Carne premium meat
 商品名：Pure A5 Japanese Wagyu Yakiniku, Shabu Shabu 1kg
 価格：AED 951.43 (3,850円/100g)



小売名：La Carne premium meat
 商品名：A5 Genuine Japanese Wagyu Striploin (Sirloin) Steak 500-600g
 価格：AED 914.29 (6,167円/100g)



小売名：La Carne premium meat
 商品名：A5 Genuine Japanese Wagyu Ribeye Steak 500-600g
 価格：AED 685.71 (4,625円/100g)



小売名：La Carne premium meat
 商品名：A5 Genuine Japanese Wagyu Tenderloin Steak 500-600g
 価格：AED 971.43 (6,553円/100g)



UAEの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格



小売名：MLS
商品名：Japanese A5 Wagyu Beef Striploin Steak 300g
価格：AED 575.00 (7,757円/100g)



小売名：MLS
商品名：Japanese A5 Wagyu Beef Ribeye Steak 300g
価格：AED 575.00 (7,757円/100g)



小売名：MLS
商品名：AUS Wagyu Beef Tenderloin Steak MB 8/9 250g
価格：AED 207.60 (3,361円/100g)



小売名：MLS
商品名：AUS Wagyu Beef Tenderloin Steak MB 6/7 250g
価格：AED 195.00 (3,157円/100g)



小売名：MLS
商品名：AUS Wagyu Beef Tenderloin Steak MB 4/5 250g
価格：AED 175.00 (2,833円/100g)



小売名：MLS
商品名：AUS Wagyu Beef Striploin Steak MB 8/9 250g
価格：AED 192.80 (3,121円/100g)



小売名：MLS
商品名：AUS Wagyu Beef Striploin Steak MB 6/7 250g
価格：AED 175.00 (2,833円/100g)



小売名：MLS
商品名：AUS Wagyu Beef Striploin Steak MB 4/5 250g
価格：AED 147.50 (2,388円/100g)



カタールの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格



小売名：Carrefour
商品名：Australian Wagyu Beef
Tenderloin Steak 200g
価格：QAR 89.75（1,824円/100g）



小売名：Carrefour
商品名：Australian Wagyu Beef
Striploin Steak 250g
価格：QAR 97.50（1,585円/100g）



小売名：Snoonu
商品名：Tenderloin Wagyu MB5 (AUS)
250g
価格：QAR 145.00（2,357円/100g）



小売名：Snoonu
商品名：Ribeye Steak Wagyu Mb9
250g (AUS)
価格：QAR 155.00（2,520円/100g）



小売名：Al Osra
商品名：Australian Fresh Beef Wagyu
Tenderloin 1Kg
価格：QAR 46.995（191円/100g）



小売名：Al Osra
商品名：Australian Wagyu Beef
Tenderloin 1Kg
価格：QAR 46.990（191円/100g）



小売名：Monoprix
商品名：Australian Beef Wagyu
Tomahawk 1Kg
価格：QAR 335.00（1,361円/100g）



小売名：Monoprix
商品名：Australian Beef Wagyu
Tenderloin 1Kg
価格：QAR 679.00（2,760円/100g）



バーレーンの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格

<p>小売名：nassfood 商品名：KAROO Wagyu chilled bonelessBeef Ribeye Steak (MS 9+) 250g 価格：BHD 9.900 (1,560円/100g)</p>	<p>小売名：nassfood 商品名：KAROO Wagyu chilled boneless Striploin Steak (MS 8-9) 250g 価格：BHD 8.500 (1,340円/100g)</p>	<p>小売名：alosra 商品名：Diamantina Wagyu Beef Rib Eye Steak(AUS) 250g 価格：BHD 12.995 (2,048円/100g)</p>	<p>小売名：alosra 商品名：Diamantina Wagyu Beef Tenderloin Steak (AUS) 200g 価格：BHD 11.995 (2,363円/100g)</p>
<p>小売名：nassfood 商品名：KAROO Wagyu chilled boneless Beef Picanha (MS6-7) 1kg 価格：BHD 18.000 (710円/100g)</p>	<p>小売名：nassfood 商品名：KAROO Wagyu chilled boneless Beef Brisket point (MS4-5) 1kg 価格：BHD 6.500 (256円/100g)</p>	<p>小売名：alosra 商品名：Australian fresh beef wagyu tenderloin 1kg 価格：BHD 46.995 (1,852円/100g)</p>	<p>小売名：alosra 商品名：Australian Wagyu Tenderloin 1kg 価格：BHD 46.990 (1,851円/100g)</p>



オマーンの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格



小売名：MLS
 商品名：Japanese A5 Wagyu Beef Ribeye Steak 250g
 価格：OMR 30.00 (4,632円/100g)



小売名：MLS
 商品名：Japanese A5 Wagyu Beef Striploin Steak 250g
 価格：OMR 30.00 (4,632円/100g)



小売名：MLS
 商品名：Japanese A5 Wagyu Beef Burgers 125g×2
 価格：OMR 5.00 (772円/100g)



小売名：MLS
 商品名：AUS Wagyu Beef Ribeye Steak MB 8/9 250g
 価格：OMR 15.40 (2,378円/100g)



小売名：MLS
 商品名：AUS Wagyu Beef Striploin Steak MB 6/7 250g
 価格：OMR 10.00 (1,544円/100g)



小売名：MLS
 商品名：AUS Wagyu Beef Tenderloin Steak MB 4/5 250g
 価格：OMR 10.50 (1,621円/100g)



小売名：MLS
 商品名：AUS Wagyu Beef Ribeye Steak MB 4/5 250g
 価格：OMR 10.00 (1,544円/100g)



小売名：MLS
 商品名：AUS Wagyu Beef Tenderloin Steak MB 6/7 250g
 価格：OMR 11.50 (1,776円/100g)



クウェートの小売店で流通している和牛・Wagyuの価格



小売名：HyperMarket
 商品名：Khazan Premium Quality
 Wagyu Beef Burger (UAE) 452g
 価格：KWD 3.700 (395円/100g)



小売名：HyperMarket
 商品名：Diamantia Wagyu Burger
 Patties (AUS)
 価格：KWD 1.175



小売名：Carrefour
 商品名：Wagyu Striploin Steak (ZAF)
 1kg
 価格：KWD 3.490 (168円/100g)



小売名：Carrefour
 商品名：Wagyu Striploin Steak (AUS)
 1kg
 価格：KWD 9.990 (482円/100g)



小売名：Meatchop
 商品名：Wagyu Tenderloin +9 (AUS)
 100g
 価格：KWD 6.800 (3,278円/100g)



小売名：Meatchop
 商品名：Wagyu Ribeye 6-7 + (AUS)
 100g
 価格：KWD 4.800 (2,314円/100g)



小売名：Meatchop
 商品名：Wagyu Tomahawk 1.9-2.0kg
 (AUS)
 価格：KWD 51.000 (1,229円/100g)



小売名：Meatchop
 商品名：Wagyu Ribeye 8-9 + 100g
 (AUS)
 価格：KWD 6.500 (3,133円/100g)



UAE及びサウジアラビアにおいて輸入者となりうる企業

企業名	所在地、電話番号、ウェブサイト	現在の事業内容と展望
Wasl Way	リヤド、サウジアラビア	<p>日本産食品の輸入販売を手掛けるサウジアラビアの商社です。世界各国の食品メーカーとのネットワークを活かし、外食産業や小売業者のニーズに応える高品質な日本の特産品を提供している。主な取扱品目は寿司食材や魚介類（マグロ・キンメダイなど）、果物（メロン、ゆず）など多岐にわたり、牛肉ではサーロインやテンダーロインといった和牛の部位もラインナップされている。輸入業者・ディストリビューターとしてサウジ国内の一流レストランや小売店から信頼を得ている。</p>
	+966 50 877 2342	
	ウェブサイトURL	
Dark Cow Trading	リヤド、サウジアラビア	<p>日本産和牛の輸入販売に特化したサウジアラビア・リヤドの企業である。最高品質の黒毛和牛「黒花和牛」をサウジ市場向けに提供することを使命としており、同社が取り扱う黒花和牛の約7割以上が格付け最高峰のA4・A5等級に達している。黒花和牛は九州地方（熊本県）の自然豊かな環境で長期間母乳で育てられた特別な和牛で、卓越した風味と柔らかな食感が特徴である。Dark Cow Tradingは日本の老舗食肉メーカー杉本本店（熊本市）と強力なパートナーシップを結んでおり、日本国内で肥育・処理された和牛を直接仕入れているため、新鮮で高品質な和牛肉を安定的に供給できるとしている。同社の和牛はハラール認証済みで、リヤドを拠点にオンライン注文を中心とした販売を展開し、ステーキ愛好家や高級飲食店から需要を獲得している。</p>
	+966 55 222 7169	
	ウェブサイトURL	
TKI Trading	ドバイ、UAE	<p>日本産和牛の提供に特化したドバイ拠点の食肉サプライヤーである。主力商品は九州産の黒毛和牛ブランド「黒花和牛」で、ハラール認証を取得した熊本中央食肉流通センターで処理された和牛を直輸入している。同社はドバイ首长国内の高級和食店やホテル、スーパーマーケットなど約200の事業者を顧客に抱えており、日本からコンテナ単位で定期的に和牛を輸入して現地で部分肉加工・販売している。その供給量はドバイにおける和牛輸入量の約60%を占める規模に達しているとしている。また、自社オンラインストアを通じて一般顧客にも卸売価格で和牛を提供しており、誰もが日常的に最高級和牛を楽しめるようにすることを目指している。グループ企業としてドバイ市内に和食レストラン（Kimurayaなど）を複数展開しており、日本食文化と和牛の普及にも力を入れている企業である。</p>
	+971 50 657 8183	
	ウェブサイトURL	
Summit Trading	アブダビ、UAE	<p>1977年にアブダビで設立された、UAEで最も歴史のある日本食品専門商社である。設立以来、日本の食品・食材の輸入卸売に特化して事業を拡大し、現在では日本からの加工食品・チルド/冷凍食品、和牛、高品質マグロや新鮮野菜・果物などを空輸・船便で調達している。輸入した商品はUAE国内の日本レストラン、高級ホテル、スーパーマーケットから近隣中東諸国の取引先にまで卸供給しており、一部商品は周辺国へ再輸出も行っている。長年の実績と信頼により、多くのレストラン・ホテル・小売企業を顧客に抱えており、UAEにおける日本産和牛の主要な供給元の一つである。近年では自社ECサイト「Summit Webstore」の開設や和食レストランの運営（Summit Hinomaru Shokudo）など、新たな販路開拓や日本食の普及活動にも取り組んでいる。</p>
	+971-2-674-3100	
	ウェブサイトURL	
Country Hill	ドバイ、UAE	<p>1999年にUAEで設立され、食品のリーディングサプライヤーとしてGCC地域で成長してきた食品企業である。主にUAE国内を中心に周辺の湾岸諸国（GCC）へも販売網を持っている。事業内容は食品の輸入・流通業で、世界各地（豪州、NZ、日本、欧州など）の高品質なブランド肉や食品を仕入れ、UAEの小売・外食・ホテル業界に供給している。特にチルド高級肉に注力しており、和牛（日本産牛肉）や穀物肥育牛、牧草肥育牛、仔牛肉、ラム、家禽類など多彩な商品ポートフォリオを持っている。2022年には日本の神戸ビーフ（兵庫県産但馬牛）について公式認定輸入業者となり、神戸肉流通推進協議会に加盟して真正銘の神戸和牛を取り扱い開始した。一般消費者向けには2010年に精肉小売店「Prime Gourmet」を開設しており、高品質な和牛を含む肉類を直接販売するルートも展開している。</p>
	+971 4 347 0200	
	ウェブサイトURL	



牛肉に関する輸出関係書類

国名	輸出に必要な書類	各証明書の取得に必要な書類（NACCS申請の場合）
UAE	食肉衛生証明書 （UAE向け輸出牛肉を取り扱うと畜場の認定手続きが必要）	<ul style="list-style-type: none"> ■ UAE向け輸出牛肉を取り扱うと畜場等の認定手続きに必要な書類 <ul style="list-style-type: none"> ・（様式 1 - 1）アラブ首長国連邦向け輸出と畜場認定申請書 ・（様式 1 - 2）アラブ首長国連邦向け輸出食肉処理場認定申請書 ・（様式 2）アラブ首長国連邦向け輸出牛肉を取り扱うと畜場及び食肉処理場 ・アラブ首長国連邦向け輸出牛肉の食肉衛生証明書の発行申請書 ■ UAE向け輸出牛肉の食肉衛生証明書の申請 <ul style="list-style-type: none"> ・（様式 3 - 1）食肉衛生証明書発行申請書様式書 ・（別紙様式 3 - 2）Official Inspection Certificate For Export of Beef Products From JAPAN To United Arab Emirates
カタール	食肉衛生証明書 （カタール向け輸出牛肉を取り扱うと畜場等の認定が必要）	<ul style="list-style-type: none"> ■ カタール向け輸出牛肉を取り扱うと畜場等の認定 <ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式 1）と畜場設置者等申請様式 ・（別紙様式 2）都道府県知事等報告様式 ■ 食肉衛生証明書の発行 <ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式 4 - 1）食肉衛生証明書発行申請書様式 ・（別紙様式 4 - 2）食肉衛生証明書様式
サウジアラビア	食肉衛生証明書及び輸出検査証明書 （サウジアラビア向け輸出牛肉を取り扱うと畜情等の認定が必要）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 認定等の手続 <ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式 1）と畜場及び食肉処理施設設置者等申請様式 ■ 食肉衛生証明書の発行及び輸出検査証明書の交付手続 <ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式 3）確認書（サウジアラビア向け） ・（別紙様式 4）申告書（サウジアラビア向け） ・（別紙様式 5 - 1）食肉衛生証明書発行申請書様式 ・（別紙様式 5 - 2）食肉衛生証明書様式 ・（別紙様式 6）輸出検査証明書様式
バーレーン	食肉衛生証明書 （バーレーン向け輸出牛肉を取り扱うと畜場等の認定が必要）	<ul style="list-style-type: none"> ■ バーレーン向け輸出牛肉を取り扱うと畜場等の認定手続 <ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式 1）と畜場設置者等申請様式 ・（別紙様式 2）都道府県知事等報告様式 ■ 食肉衛生証明書の発行 <ul style="list-style-type: none"> ・（別紙様式 3 - 1）食肉衛生証明書発行申請書様式 ・（別紙様式 3 - 2）食肉衛生証明書様式

各様式は農林水産省のウェブサイト（https://www.maff.go.jp/j/shokusan/hq/i-4/yusyutu_shinsei_tyuto.html）から入手可能である。

出典：農林水産省 > 輸出・国際 > 証明書や施設認定の申請 > 中東



牛肉に関する輸入規制・関税

湾岸協力会議（GCC）統一関税法により、主な品目ごとの輸入関税は、0%または5%の対外共通税率が課税される。

輸入時とは別に販売時の課税はそれぞれの国で異なるため現地の輸入者や販売者と確認が必要である。

HS分類	0%	5%
第2類 (肉類)	牛肉（生鮮・冷蔵）： HS 0201	牛肉（冷凍）： HS 0202
第3類 (魚類)	魚（生鮮・冷蔵）： HS 0302	魚（冷凍）： HS 0303 魚のフィレ（生鮮・冷蔵・冷凍）： HS 0304
第5類 (肉以外の畜産物)		乳製品： HS 0401 ~ 0406 鶏卵： HS 0407 ~ 0408
第7類 (野菜)	野菜（生鮮・冷蔵）： HS 0701 ~ 0709	野菜（冷凍）： HS 0710
第8類 (果実)	果実（生鮮・乾燥）： HS 0805 ~ 0810	果物（冷凍）： HS 0811
第9類 (コーヒー・茶・香辛料)	コーヒー： HS 0901 茶： HS 0902	香辛料： HS 0903 ~ 0910
第10類 (穀類)	精米、玄米（パックご飯を除く）： HS 1006	
第15類 (油脂類)		動物性・植物性を問わない： HS 1501 ~ 1517 *2
第16類～第22類 (加工食品)	砂糖： HS 1701	肉魚加工品： HS 1601 ~ 1605 砂糖菓子： HS 1704 チョコレート類： HS 1806 麺類： HS 1902 パックご飯： HS 1904 ソース類： HS 2103 酢： HS 2209 *3



ハラール認証取得が可能な日本の機関

本書では代表的な 2 機関を紹介する

法人名	NPO法人日本ハラール協会（JHA）	宗教法人日本イスラーム文化センター（JIT）
概要	2010年に設立された日本ハラール協会である。マレーシアJAKIMを筆頭にシンガポールMUISや、タイCICOT、インドネシアBPJPH等から承認を取得している。2017年には日本で初めてUAE ESMAの認証を取得した。	1978年に設立された日本イスラーム文化センターである。2008年にGCCのEIAC認証を取得したのを皮切りに、UAEのESMA等の認証を取得している他、サウジアラビアのSFDAとも相互認証を取得している
マレーシア	取得可能	取得可能
シンガポール	取得可能	取得可能
タイ	取得可能	取得可能
インドネシア	取得可能	取得可能
中東・湾岸諸国	取得可能	取得可能
サウジアラビア	取得可能	取得可能
UAE	取得可能	取得可能
カタル		取得可能
トルコ	取得可能	
台湾	取得可能	



牛肉に関するハラール認証取得手続き

国名	輸出に必要な書類	備考
UAE	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内ハラール認証機関に認証依頼 2. 国内認証機関の査察を受ける 3. UAE 政府機関の査察を受ける。費用は施設側が負担。 4. UAE 政府機関 Web サイトに工場名が記載される 5. 都道府県知事等宛てに国内認証機関の認証書等の必要書類をととも認定申請書を提出 6. 都道府県知事等から厚生労働省へ報告され、厚生労働省が UAE へ通知すると輸出可能となる (https://www.jamti.jp/data_files/view/60/mode:inline) 	食肉衛生証明書は、証明しようとする牛肉が、認定と畜場などで適切に処理され、対UAE輸出が可能なものであることと、ハラールと畜証明書発行機関による証明がなされたものであることを確認するもので、当該牛肉処理を行った認定と畜場などを管轄する食肉衛生検査所等に発行を申請する。
カタール	カタール向け輸出牛肉を取り扱おうとすると畜場及び食肉処理場の設置者又は営業者は、アラブ首長国連邦政府により認定されたハラールと畜証明書発行機関による認証を受けた上で、当該と畜場等の所在地を管轄する都道府県知事又は保健所設置市長に対し、食肉衛生証明書の発行申請を行う。	
サウジアラビア	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国内のGAC((GCC Accreditation Center)登録ハラール認証団体に対してハラール認証申請を行う。 2. SFDAに商品登録を行い、証明書を取得(証明書取得までは通常1-2カ月)。 3. ハラール認証団体が申請者の施設に向き、GSOが要件とする規格等に基づいて食品/施設の現地審査・査察を実施。 4. 全ての要件を満たすことが確認されたら認証団体は申請者にハラール証明書を発行。 	サウジアラビア向け輸出牛肉を取り扱うと畜場又は食肉処理施設として認定を受ける必要がある。
バーレーン	バーレーン向け輸出牛肉を取り扱おうとすると畜場及び食肉処理場の設置者又は営業者は、アラブ首長国連邦政府により認定されたハラールと畜証明書発行機関による認証を受ける必要がある。	



中東への牛肉の輸出は、ハラール認証を取得した屠畜所で処理された商品である必要がある。

- ハラールとは
 - イスラム法によって「許されたもの」を意味する。一方、「禁止されるものまたは行為」はハラームと言われる。
 - 神が創造したものは基本的にハラールであり、例外的に禁止されているものがあると考えられている。例えば、野菜、果物、魚類、水は原則としてハラールであると考えられているが、有毒なものなどは除く。しかし、豚関連などハラームの要素が含まれていないかは常に注意を払っておく必要がある。
- ムスリムが口にすることを許されていない主な食材
 - 豚、豚のあらゆる部位
 - 豚以外でイスラムの屠畜方法に依らずに屠畜されたあらゆる動物の肉
 - 動物の血液
 - アルコール





GCC各国の認定屠畜場・加工場のリスト

都道府県	名称	屠畜	食肉処理	UAE	KSA	カタール	バーレーン
北海道	株式会社北海道畜産公社北見工場北見地区総合食肉流通センター	○	○	●		●	●
埼玉県	協業組合本庄食肉センター	○				●	●
	有限会社寄居食肉		○				
大阪府	羽曳野市立南食ミートセンター	○		●		●	●
	殖生ミートパッカー株式会社		○				
兵庫県	三田食肉センター	○	○	●	●	●	●
徳島県	株式会社にし阿波ビーフ	○	○	●	●	●	●
	徳島市立食肉センター	○				●	
	株式会社フジミツハセガワ		○				
熊本県	株式会社熊本中央食肉センター	○		●	●	●	
	株式会社杉本本店		○				
	全国開拓農業共同組合連合会人吉食肉センター	○				●	●
	ゼンカイミート株式会社		○				
宮崎県	株式会社SEミート宮崎※	△	△				

※株式会社SEミートは宮崎はUAEの施設認定取得申請済み、未取得

出典：農林水産省「令和6年1月4日更新 施設リスト」 https://www.maff.go.jp/j/shokusan/hq/i-4/attach/pdf/yusyutu_shinsei_tyuto-49.pdf

2. ウェビナー開催の運営



本事業においては外食分野と植物工場分野の2回に分けて、ウェビナーを開催した

- 中東主要国（UAE, サウジアラビア）への投資に関心のある企業や研究機関などを対象に、オンライン形式によるウェビナー開催の運営（セミナー参加者の管理（募集から集約まで）、セミナー登壇者の選定、次第作成、司会進行、アンケートの実施）を行った。
- ウェビナーは、外食分野及び植物工場分野の2回に分けて、それぞれ2024年11月に実施した。各ウェビナーの概要は以下の通り

ウェビナータイトル	日時（日本時間）	内容	参加者数
中東主要国における外食産業に対する投資促進ウェビナー	2024年11月19日（火） 15時～17時	UAE及びサウジアラビアにおける外食産業・日本食市場の概況 株式会社クロスリーチ UAEでの外食産業における食ビジネスの課題と機会 ドバイ友レストラン サウジアラビアにおける日本産食品の課題と機会 Wasl Way Trading	49名
中東主要国における植物工場市場に対する投資促進ウェビナー	2024年11月18日（月） 15時～16時30分	UAE、サウジアラビアにおける植物工場市場の概況とビジネス機会 株式会社クロスリーチ 中東地域における植物工場事業の展開状況と課題・機会 中東三井物産株式会社	74名



【参考】ウェビナーの開催案内

中東主要国における外食産業に対する 投資促進ウェビナー

1. 概要

現在、農林水産省では令和6年度食産業の戦略的海外展開支援委託事業（中東主要国の農林水産業・食品分野における日系企業の投資促進）を実施しており、中東主要国における外食産業（日本産和牛を含む）の最新動向や日本企業にとっての事業参入機会について、調査を実施しています。本ウェビナーは、その調査の一環として、UAE及びサウジアラビアでの外食産業市場（日本産和牛を含む）をご説明すると共に、現在事業を展開している企業の方を招聘し、その事業展開状況や、市場における課題や機会について、講演を行います。あわせて、2025年1月下旬に実施（予定）の官民ミッションについてご案内いたします。 ※予定は予告なく変更する場合がございます。

2. 開催日時・会場

2024年11月19日（火）15時～17時 参加費：無料
会場：オンライン配信（ZOOMを利用）

※ 開催日が近づきましたら、視聴リンクをメールにてご案内いたします。

3. 内容

開会のご挨拶

農林水産省 輸出・国際局

講演（1）

UAE及びサウジアラビアにおける外食産業・日本食市場の概況

株式会社クロスリーチ コンサルティング事業部長 石橋 哲也 氏

講演（2）

UAEでの外食産業における食ビジネスの課題と機会

ドバイレストラン パートナーシェフ 高橋 智寿 氏（業種：飲食経営）

講演（3）

サウジアラビアにおける日本産食品の課題と機会

Wasl Way Trading 代表取締役 齊藤 久哉 氏（業種：輸入・卸売）

質疑応答

官民ミッションのご案内

4. 参加登録方法

以下のフォームに必要事項をご記入ください。

申込締め切り：11月18日（月曜日）正午（日本時間）

<https://forms.gle/oLU9dmgtVYySQoHzGA>

5. 問い合わせ先

株式会社クロスリーチ コンサルティング事業部 石橋、渡辺

電話：03-4213-4299 メール：consulting@xreach-inc.com

中東主要国における植物工場市場に対する 投資促進ウェビナー

1. 概要

現在、農林水産省では令和6年度食産業の戦略的海外展開支援委託事業（中東主要国の農林水産業・食品分野における日系企業の投資促進）を実施しており、UAE及びサウジアラビアにおける植物工場市場における最新動向や日本企業にとっての事業機会について、調査を実施しています。本ウェビナーは、その調査の一環として、各国における食品市場の概況をご説明すると共に、各国において植物工場市場を展開している企業の方を招聘し、その事業展開状況や、市場における課題や機会について、講演を行います。あわせて、2025年1月下旬に実施（予定）の官民ミッションについてご案内いたします。 ※予定は予告なく変更する場合がございます。

2. 開催日時・会場・参加費用

2024年11月18日（月）15時～16時30分 参加費：無料
会場：オンライン配信（ZOOMを利用）

※ 開催日が近づきましたら、視聴リンクをメールにてご案内いたします。

3. 内容

開会のご挨拶

農林水産省 輸出・国際局

講演（1）

UAE、サウジアラビアにおける植物工場市場の概況とビジネス機会

株式会社クロスリーチ コンサルティング事業部長 石橋 哲也 氏

講演（2）

中東地域における植物工場事業の展開状況と課題・機会

中東三井物産株式会社 プロジェクトマネージャー 項 星宇 氏

質疑応答

官民ミッションのご案内

4. 参加登録方法

以下のフォームに必要事項をご記入ください。

申込締め切り：11月15日（金曜日）正午（日本時間）

<https://forms.gle/7hpykjcAJrNmUoakZ>

5. 問い合わせ先

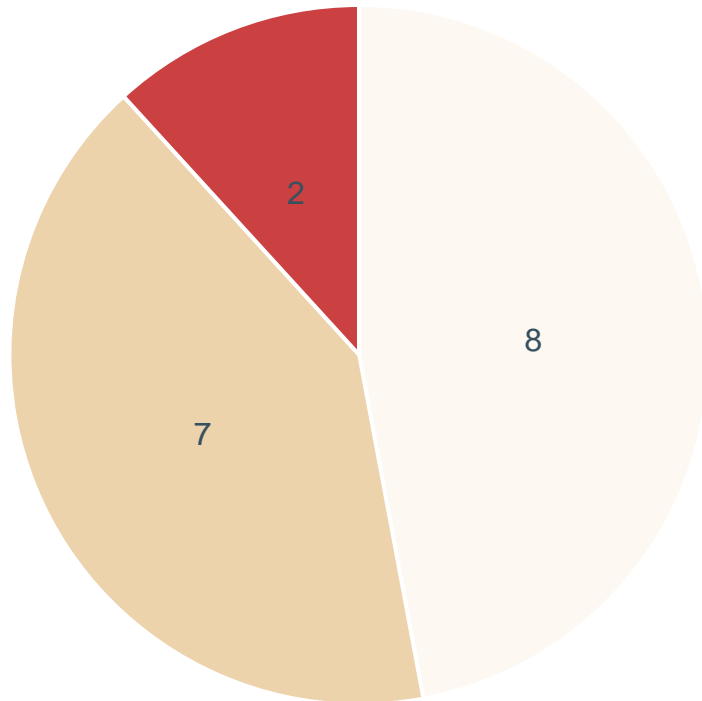
株式会社クロスリーチ コンサルティング事業部 石橋、渡辺

電話：03-4213-4299 メール：consulting@xreach-inc.com



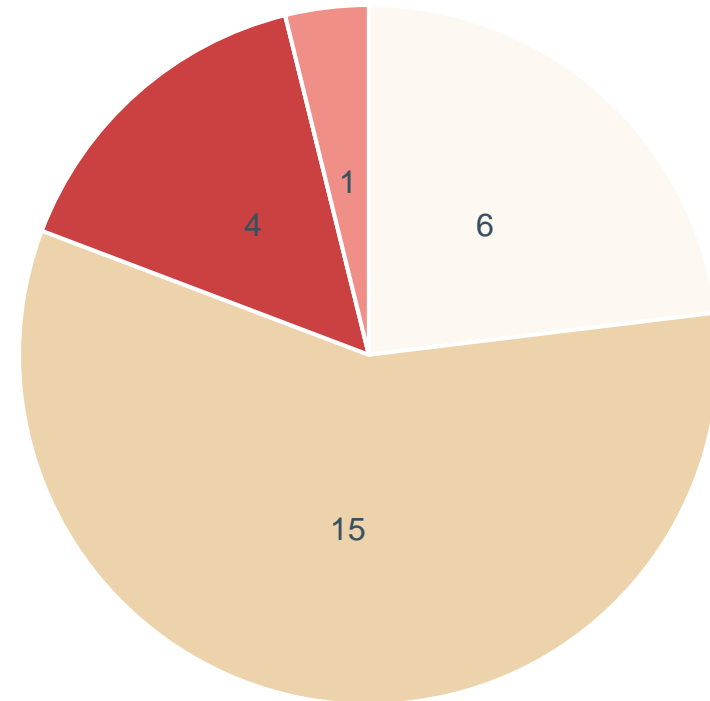
ウェビナーの開催後は参加者に対するアンケートを行い、**外食産業17名、植物工場25名**の回答を収集した

**外食産業に関するウェビナーのフィードバック：
当日のセミナーの満足度について（5段階評価）**



■ とても満足している ■ 満足している ■ どちらともいえない
■ 不満である ■ とても不満である

**植物工場に関するウェビナーのフィードバック：
当日のセミナーの満足度について（5段階評価）**



■ とても満足している ■ 満足している ■ どちらともいえない
■ 不満である ■ とても不満である



ウェビナー後のアンケートにおいては、外食産業の中東市場展開について、様々な課題が挙げられた。特に目に付いてのは、情報が不足しており現地展開の進出先候補として検討しづらいという意見

外食産業の中東市場展開に関する課題：

情報の取得性に関する課題：

- 諸々の法律、認証規格の把握
- 現地の情報不足から中東をビジネスの対象とする企業が極めて少ない
- 情報量が少なく、進出場所の候補に上がりにく状況
- 市場調査不足
- 正確な知見（が不足している）

現地の事業環境に関する課題：

- 慣習の違い
- 効果的な拡販策が不明
- コールドチェーンの有無
- ハラル認証の必要性

国内のサプライヤーに関する課題

- ハラル認証の食肉センターが少ない点



ウェビナー後のアンケートにおいては、植物工場産業の中東市場展開について、様々な課題が挙げられた。特に目に付いてのは、有力なパートナーを探索することのハードルが高いという意見

植物工場産業の中東市場展開に関する課題：

現地の事業パートナーに関する課題：

- 技術、商材を展開するにしてもパートナーが必要と考えている
- 現地生産者、ソリューションプロバイダー、政府関係者とのコネクション
- 技術とパートナー、パートナーの探索、有望なパートナーの選定
- バイヤーとエンドユーザーとの関係構築 等

情報の取得性に関する課題：

- 日本での情報量が少なく、進出の選択肢として選ばれにくい状況
- 現地の規制添加物の最新情報

商品の輸送に関する課題

- 肥料調達、種子調達、資材（ウレタン）調達が大きな輸送コストかけずにできるルート

3. 官民ミッション



本事業においては外食分野と植物工場分野の2回に分けて、官民ミッションを開催した

- 各ミッションの概要については、以下の通り

分野	ミッション開催日時	内容	参加者数 (事務局除く)
外食産業	2025年1月27日（月）～ 28日（火）@UAE、 29日（水）～30日 （木）@サウジアラビア	現地小売店視察（現地スーパーマーケットチェーン（日本産含むアジア食品を一部取り扱いあり）、日本産含む和牛・鮮魚専門店、アジア食品スーパー等） 現地輸入ディストリビューターとの面談・意見交換 UAE・サウジアラビアの日本食レストランシェフとの面談・意見交換 UAE・サウジアラビア政府機関との面談・意見交換	5名
植物工場	2024年1月28日（火）～ 30日（木）@サウジアラビア	現地小売店視察（現地スーパーマーケットチェーン（植物工場で生産された商品の販売あり）、生鮮青果市場等） 現地植物工場事業者との面談・意見交換 サウジアラビアの政府機関との面談・意見交換	3名

3. 官民ミッション：外食産業



外食産業については、主に現地での日本食の普及状況や今後の和牛をはじめとする日本産食材の展開可能性について、現地視察や現地事業者との意見交換を行った

日付	時間	内容
1月27日(月)	10:15	Citymax Hotel Business Bay ホテルロビー集合、クロスリーチ手配バスで視察先へ
	10:45 - 11:45	Lulu Hyper market, Al Basha 視察、 クロスリーチ手配バスで昼食会場へ移動
	12:15 - 13:30	現地で昼食兼木村屋による市況感の説明 (セットメニューにて昼食を提供。費用：150AED 程度)
	13:30 - 14:00	クロスリーチ手配バスで Chef Middle East 社オフィスへ
	14:00 - 15:30	Chef Middle East 社訪問
	15:30 - 16:30	クロスリーチ手配バスで Maru Udon Business Bay 店へ
	16:30 - 17:30	Maru Udon 訪問
	17:30 - 18:00	クロスリーチ手配バスでホテルへ
	18:00	Citymax Hotel Business Bay ホテルにて解散
		ドバイ泊
1月28日(火)	09:30	Citymax Hotel Business Bay ホテルロビー集合、 クロスリーチ手配バスで Fishmonger by Prime Gourmet へ
	10:00 - 10:30	Fishmonger by Prime Gourmet 訪問
	10:30 - 11:00	クロスリーチ手配バスで Dubai FDI へ
	11:00 - 12:00	Dubai FDI 訪問
	12:00 - 12:30	クロスリーチ手配バスで現地レストランへ
	12:30 - 13:30	昼食@Kinoya (現地系日本レストラン) (各自注文：100AED~150AED 程度)
	13:30 - 14:45	1004 訪問
	14:45 - 16:00	クロスリーチ手配バスでドバイ空港へ移動、解散 各自リヤドへ移動、リヤド泊

日付	時間	内容
1月29日(水)	09:00	ibis Riyadh Olaya Street ロビー集合、 クロスリーチ手配バスで視察先へ
	09:30 - 10:30	現地小売店視察 (Tamimi / WeMart)
	10:30 - 11:00	クロスリーチ手配バスでレストランへ移動
	11:00 - 11:30	レストラン (Yokari) 訪問
	11:30 - 12:00	クロスリーチ手配バスで移動
	12:00 - 13:00	レストランシェフ (Robata) 訪問
	13:00 - 14:30	レストラン (Robata) にて昼食
	14:30 - 15:00	クロスリーチ手配バスで Wasl Way 社オフィスへ移動
	15:00 - 16:30	Wasl Way 社訪問
	16:30 - 17:00	クロスリーチ手配バスでホテル移動、解散
	リヤド泊	
1月30日(木)	08:15	ibis Riyadh Olaya Street ホテルロビー集合、 クロスリーチ手配バスで投資省へ移動
	09:00 - 14:30	ワークショップ@MISA - 詳細調整中 (MISA によるサウジアラビアへの投資環境概要説明、 MEWA による食料自給率向上に関する取り組みの概要説明、現地 企業とのネットワーキング)
	14:30 - 15:00	クロスリーチ手配バスで市内ホテルへ移動
	15:00 - 16:00	JETRO リヤド事務所 MTG・意見交換 (Novotel Riyadh Olaya Street にて実施)
	16:00 - 18:00	クロスリーチ手配バスでリヤド空港へ移動、解散



【参考】官民ミッションにおける現地訪問先



現地の訪問先：卸売事業者

Chef Middle East



Chef Middle East社の概要

	概要
設立年	1995
設立者	非公開（現在は米国大手卸売事業者 Chef's Warehouse社の子会社）
ウェブサイト	https://www.chefmiddleeast.com/
住所・電話番号	Land Number 443, Dubai Investment Park 2 Dubai
主要事業	• 食品、食材輸入卸
取扱商品	• 肉、魚介類、乳製品、調味料、パン、菓子類、アジア食材（日本食含む）、飲料
その他	• 従業員数450人
概要	当社は、アラブ首長国連邦、カタール、オマーンにおいて、5つ星ホテルや世界的なダイニング、国際チェーン店、コンセプトレストランなど、3,500以上の顧客にサービスを提供している。また、インド洋、アフリカ、CIS地域といった各地の顧客にも、同様に卓越した品質のサービスと製品を提供している。



【参考】官民ミッションにおける現地訪問先



現地の訪問先：卸売事業者

1004



1004社の概要

	概要
設立年	2008
設立者	Dong Chul Shin
ウェブサイト	https://www.1004gourmet.com/
住所・電話番号	Onyx Tower 1, Sheik Zayed Road, Dubai
主要事業	<ul style="list-style-type: none">• 食品、食材輸入卸• 小売業
取扱商品	<ul style="list-style-type: none">• 肉、海産物、野菜、フルーツ、調味料、米、菓子類、飲料
その他	<ul style="list-style-type: none">• 従業員数50-201名 (Linkedin情報)
概要	当社は、韓国系食材輸入卸で、主に韓国と日本から食材を輸入している。自社の小売店も有しており、幅広い商品を販売している。常に新しい商品を探索しており、新鮮な食材を追求するため、果物や野菜を週に2回空輸し、その季節に日本や韓国の地元の人々が食べているものと同じものを楽しめるよう努めている。



【参考】官民ミッションにおける現地訪問先



現地の訪問先：レストラン事業者

Maru Udon



Maru Udon社の概要

	概要
設立年	2020
設立者	非公開
ウェブサイト	https://www.instagram.com/maru.udon/
住所・電話番号	Business Bay店：Majestic Tower, Business Bay Motor City店：Motor City, Neighborhood Food Hall
主要事業	• 飲食店（うどん専門店）
取扱商品	• うどん
概要	当社は、自社で製麺を行い、日本のうどん専門店と同様の品質の麺がいただけると高い評価を得ている現地発のうどん店である。店舗運営兼レシピ開発を日本人シェフが行い、スープを現地向けに改良する等、ローカライズされたメニューが人気を博している。



【参考】官民ミッションにおける現地訪問先



現地の訪問先：政府機関

Dubai FDI



Dubai FDIの概要

	概要
設立年	2014
設立者	現代表：Fahad Al <u>Gergawi</u>
ウェブサイト	https://www.dubaifdimonitor.ae/
住所・電話番号	One Central, Building 2, PO Box 594, Dubai
主要事業	• ドバイへの直接投資を誘致・支援する政府機関
取扱商品	• —
その他	• —
概要	ドバイFDI は、ドバイへの投資を計画している外国企業に重要な情報と貴重なサポートを提供している。また、ドバイFDI は、最適な法的構造の決定から適切な事業活動の特定に至るまで、事業上の意思決定と管理のあらゆる側面について指導、アドバイス、実践的な支援を提供している。



【参考】官民ミッションにおける現地訪問先



現地の訪問先：卸売事業者

Wasl Way Trading社



Wasl Way Trading社の概要

	概要
設立年	2021
設立者	Mana Salem Al Mana Al Falasi(創業者)
ウェブサイト	https://waslway.com/
住所・電話番号	Riyadh +966-508-772-342
主要事業	・ 食品流通・卸売
取扱商品	・ 和牛、本マグロ、日本近海鮮魚、和食器、果物など
その他	・ 2021年12月2日にサウジアラビア王国の首都リヤドに設立 ・ 日本人マネージャーがパートナーとして会社経営に携わっている
概要	・ 日本食全般を輸入販売している卸売り事業者であり、現地の幅広い日本食レストランに対して日本食材を供給している

3. 官民ミッション：植物工場産業



植物工場産業については、主に現地の生鮮青果の市場状況や、既に事業展開を進めている植物工場事業者と今後の市場展望や日本企業による参入可能性について意見交換を行った

日付	時間	内容
1月28日(火)	13:00	ibis Riyadh Olaya Street ホテルロビー集合、クロスリーチ手配バスで視察先へ移動※ ※昼食は各自この時間までに済ませておく
	13:30 - 17:00	現地市場 (North Market Fruits & Vegetables) 視察及び小売店 (Tamimi/Danube) 視察 [MISA アテンド]
	17:00	クロスリーチ手配バスでホテルへ移動、解散
		リヤド泊
1月29日(水)	09:00	ibis Riyadh Olaya Street ホテルロビー集合、クロスリーチ手配バスで視察先へ
	10:00 - 11:30	Mowreq/YesHealth 社 (植物工場事業者) MTG 及び植物工場の視察
	11:30 - 12:30	クロスリーチ手配バスで昼食会場へ移動
	12:30 - 13:30	昼食 (Mowreq 社納品先レストランの Kuuru にて)
	13:30 - 15:00	クロスリーチ手配バスで移動
	15:00 - 17:00	Green Dunes Company Limited (三井物産出資植物工場)
	17:00 - 18:30	クロスリーチ手配バスでホテルへ移動、解散
		リヤド泊
1月30日(木)	08:00 - 08:50	ibis Riyadh Olaya Street ホテルロビー集合、クロスリーチ手配バスで投資省へ移動
	09:00 - 14:30	ワークショップ@MISA - 詳細調整中 (MISA によるサウジアラビアへの投資環境概要説明、MEWA による食料自給率向上に関する取り組みの概要説明、現地企業とのネットワーキング)
	14:30 - 15:00	クロスリーチ手配バスで市内ホテルへ移動
	15:00 - 16:00	MTG・意見交換 (JETRO リヤド事務所) ※
	16:00 - 18:00	クロスリーチ手配バスでリヤド空港へ移動、チェックイン



【参考】官民ミッションにおける現地訪問先

現地の訪問先：植物工場事業者

Mowreq社



Mowreq社の概要

	概要
設立年	2020
設立者	Modar Hisham Nazer
ウェブサイト	https://www.mowreq.com/
住所・電話番号	Riyadh Industrial Area 2 +966-12-6225005
主要事業	• 植物工場における生鮮品の製造・販売
取扱商品	• ハーブ類（ローズマリー、タイム、ディル等）、ミックスサラダ、食用花等
その他	• 2020年に設立され、2022年に台湾のYes Health社とのJVを設立。 • 現在はジェッダとリヤドの2か所において植物工場を運営している。
概要	• 台湾の大手植物工場会社であるYes Health社とのJVであり、同社からの技術提供等を受け、植物工場を運営していると考えられる。 • 現地の植物工場で作られた野菜やハーブ等の販売先等について、知見を有している



【参考】官民ミッションにおける現地訪問先

現地の訪問先：植物工場事業者

Green Dunes社



Green Dunes社の概要

	概要
設立年	2022
設立者	三井物産、Tamimi（サウジアラビア現地スーパー）、ZERO（イタリアの
ウェブサイト	
住所・電話番号	リヤド南東部
主要事業	<ul style="list-style-type: none">植物工場における生鮮品の製造・販売
取扱商品	<ul style="list-style-type: none">ベビーリーフ、リーフレタス、イチゴ等
その他	<ul style="list-style-type: none">2022年に設立された3社JV。現在リヤドにおいて植物工場を運転している。
概要	<ul style="list-style-type: none">サウジ大手小売り事業者で高水準の店舗運営・品質管理・ブランド力を持つTamimi Markets社と、植物工場の高い技術を持ち、イタリアで工場稼働実績を持つ植物工場事業者ZERO社、中東諸国において幅広い事業投資経験を有する三井物産の共同出資でJVを設立。機器設備輸入・プラント建設の実行性、サウジにおける栽培再現性、生産物の市場における競争優位性・市場性等について知見を有する



官民ミッションの総括

- 本ミッションにおいては、市場視察6件、面談16件を実施した。
- 本事業の仕様書に記載されていたとおり、民間企業の参加者については、目安5社～10社または10名～15名を想定していたが、結果的に7社8名が参加することとなった。
- 本ミッションの目的である、ビジネスマッチングおよび実情把握を、想定よりも多くの日本企業に認知していただくことが出来た。今回の訪問相手の中には、アポイントを取得することが難しい現地企業とも面談を行えたことに加え、民間企業単独のアレンジではアポイントが難しいとされている政府機関高官とも意見交換をすることができた。
- 今後の具体的な進出検討にも資するネットワーキングが達成できたという観点でも、意義高いミッション内容であったといえる。

日本（担当：石橋哲也）

株式会社クロスリーチ（旧：株式会社ksnコーポレーション）

〒102-0073 東京都千代田区九段北一丁目14番16号 PILE KUDAN403号室

TEL： +81-3-4213-4298

MOB： +81-90-6374-0813

FAX： +81-3-4540-5658

E-mail： ishibashi@xreach-inc.com

ドバイ（担当：蓬田純二）

Cross Reach ME FZ LLC (現地法人)

Level 16, 48 Burj Gate Tower, Sheikh Zayed Rd., Downtown Dubai, UAE

TEL： +971-4-518-2532

E-mail： yomogida@ksn-corp.com